



SHIMANE
University

人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学

国立大学法人 島根大学概要 2010-2011

編集・発行／島根大学広報・広聴委員会（総務部総務課）

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL.0852-32-6011

<http://www.shimane-u.ac.jp/>

E-mail:webinfo@jn.shimane-u.ac.jp



学章

総合大学として飛躍し、発展する島根大学を日本海の青色のUで、
知性を愛し感性を育む学問の探究を茜色の扉と本で象徴しています。

国立大学法人 島根大学概要 2010-2011

2010-2011 大学概要

PROFILE OF SHIMANE UNIVERSITY



島根大学

学生満足度日本一、地域貢献を合言葉に

いよいよ2010年4月、国立大学法人の第2期中期目標・計画期間が始まりました。それぞれの国立大学の力量が問われる重要な6年間のスタートです。

島根大学はその存在意義をなお一層明確にし、社会からの期待に応えていきます。教職員の協働のもとに、本学の理念を端的に表現する標語である「人とともに 地域とともに 島根大学」の精神を強く意識しながら、人財の養成、地域の発展に向かって邁進します。

2008年4月に本学の方向性を明文化した「大学憲章」を制定しました。また、この憲章の実現のためのアクションプランを策定し、中期計画と連動させつつ着実に取り組んでいるところです。中でも、「学生満足度日本一」と「地域貢献」をキーワードにした施策に特に力点を置いています。教育研究の質の向上のみならず、学生及び地域のみなさまの満足度向上のため、教職員一体となって取り組む意思表示でもあります。教育、研究をとおして社会貢献することこそが島根大学の使命であると考えています。皆さまがたの一層のご支援をお願い申し上げます。

島根大学長 山本 廣基

CONTENTS

●学長メッセージ	1	●医学部・医学系研究科	19
●島根大学憲章	3	●医学部附属病院	21
●豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成	5	●総合理工学部・総合理工学研究科	23
●特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進	7	●生物資源科学部・生物資源科学研究科	25
●地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進	9	●法務研究科	27
●アジアをはじめとする諸外国との交流の推進	11	●附属図書館	28
●学問の自由と人権の尊重、社会の信頼に応える大学運営	13	●学内共同教育研究施設等	29
●法文学部・人文社会科学研究科	15	●キャンパスマップ	31
●教育学部・教育学研究科	17	●データブック	1~32





島根大学憲章

島根大学は、学術の中心として深く真理を探究し、専門の学芸を教授研究するとともに、教育・研究・医療及び社会貢献を通じて、自然と共生する豊かな社会の発展に努める。とりわけ、世界的視野を持って、平和な国際社会の発展と社会進歩のために奉仕する人材を養成することを使命とする。

この使命を実現するために、島根大学は、知と文化の拠点として培った伝統と精神を重んじ、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指すとともに、学生・教職員の協同のもと、学生が育ち、学生とともに育つ大学づくりを推進する。

豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成

1

島根大学は、深い教養に裏づけられた高い公共性・倫理性の涵養を教育の基礎に置き、現代社会を担う高度な専門性を身につけた人材の養成を行う。

島根大学は、学生が、山陰の豊かな自然、歴史と文化の中で、学修や関連する諸活動を通して積極的に社会に関わりながら、自ら主体的に学び、自律的人格として自己研鑽に努めるための環境を提供する。

特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進

2

島根大学は、社会の多面的要請に応えうる多様な分野の研究を推進するとともに、分野間の融合による特色ある研究を強化し、国際的に通用する創造性豊かな研究拠点を構築する。

島根大学は、社会の要請に応え、地域課題に立脚した特色ある研究を推進する。

地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進

3

島根大学は、教育・学修、研究、医療を通して学術研究の成果を広く社会に還元する。

島根大学は、市民と連携・協力して、地域社会に生起する諸課題の解決に努め、豊かな社会の発展に寄与する。

アジアをはじめとする諸外国との交流の推進

4

島根大学は、地域における国際的な拠点大学として、アジアをはじめとする国際社会に広く目を向け、価値ある情報発信と学術・文化・人材の交流を推進することによって、国際社会の平和と発展に貢献する。

学問の自由と人権の尊重、社会の信頼に応える大学運営

5

島根大学は、真理探究の精神を尊び、学問の自由と人権を尊重するとともに、環境との調和を図り、学問の府にふさわしい基盤を整える。

島根大学は、学内外の意見を十分に反映させつつ透明性の高い、機動的な運営を行う。

University Identity

豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成



島根大学の知的及び人的資源を活用して、多様化し変動し、さらにグローバル化する現代社会の要請に応え得る豊かな教養と高い倫理観を備え、かつ、科学的探求心に富む有為な人材を育成します。

このため、入口から出口までの優れた教育プログラムを提供し、成果を着実に積み上げることにより、地方における総合大学としての存在意義と社会的評価の確立を目指します。

このような教育環境をつくるため、学生の立場に立った大学づくりを目指します。

教養教育

人と世界への理解を深める

大学の教養教育は、総合的な判断力と豊かな人間性を身につけた社会人の養成、専門教育への橋渡しを目的に、4年ないし6年一貫教育の中で行われ、幅広く充実した授業を提供しています。これからの大学教育には、学生や教育内容の変化に対応して、教養教育の重視がますます望まれています。生涯学習や大学教育の基盤となる「基礎教育科目」、全人的教育として知性・感性・徳性を養う「共通教養科目」、専門教育へつながる「専門基礎教育科目」を通してこの課題に応えます。学内の全教員が、全学統一の教育方針に従って担当することにより、教養教育がいっそう充実することを目指しています。



今後ますます重要視される教養教育

学部教育

基礎から専門へ深化する一貫教育

現代社会は、さまざまな分野で起こる問題を理性的に、創造的に解決する力を求めています。その力を支えるのは、深い専門知識、広い分野、総合的な判断力です。島根大学は、教養教育から学部教育へ、基礎から専門へと体系的に深化するカリキュラムに沿って一貫した教育を行っています。

個性豊かに専門性を追求し、現代社会の多面的ニーズに応えます。

- 法文学部 人を知り、人を創る
- 教育学部 体験が育む、プロの教育実践力
- 医学部 人類の福祉と地域医療に貢献する医療人の育成
- 総合理工学部 科学・技術が創る人間の未来
- 生物資源科学部 “いのち”あふれる地球を育む

特色ある全学教育プログラム

大学で学ぶ力を身につける—初年次教育プログラム・補完教育プログラム

本学では全学で初年次教育プログラムを展開しています。初年次教育とは、大学1年生を対象に、レポートを書く、口頭発表する等大学で学ぶ上で必要な技術を習得し、これまでの受身的な学習観から主体的に学ぶ姿勢・意欲を身につけることを目的とした高校と大学を接続する教育プログラムです。同級生との仲間づくりや教員との密なコミュニケーションを促進し、大学における「居場所づくり」を行い、専門教育へのやる気を喚起することで、新しい環境での円滑なスタートを応援します。また本学では授業の内容をより理解できるように、英語、数学、物理、化学の教科に関して授業外の学修サポートプログラムを設けています。両教育プログラムは教育開発センターが企画・コーディネートを実施し、島大生らしく学ぶための基礎づくりをサポートしています。



島根に学び主体性を育む—フィールド学習教育プログラム

キャンパスから飛び出して、人と触れ合い、自然と触れ合い、文化・歴史と触れ合いながら学ぶ。これが島根大学のフィールド学習教育プログラムです。学生は、本学が位置する島根県の、身近で豊かな自然環境、社会的・文化的環境を〈エリア・キャンパス〉と見立てて、地域の方々や様々なものと実際に触れ合い、知識と体験を連動させながら学習をします。学生がそれぞれの個性を発揮し、自分自身の問題を見つけ、教員を含む仲間と力を合わせてその学生なりの答えを見つける。このような問題発見・解決型学習は、その学習結果のみならず、プロセスそのものがフィールド学習の学びの対象となります。こうした教室では得難い多面的な学びを島根大学では積極的に導入し、サポートしていきます。



環境マインドを育てる—環境教育プログラム

松江キャンパスでは平成18年3月、出雲キャンパスでは平成20年3月に環境マネジメントシステム(国際規格ISO14001準拠)を取得しました。総合大学でISO規格を取得したのは、全国でも本学が初めての事例です。これを受けてより環境に配慮し、そして自発的に行動する環境マインドを育む取り組みが全学で行われています。そうした力を養う環境教育についても、コア科目「環境問題通論」を初めとした多数の授業科目が開講されており、それらが「環境関連科目ガイド」として体系化されています。



特色ある地域課題に立脚した 国際的水準の研究推進



幅広い分野にわたって高度な研究成果を蓄積し、それぞれの分野においてアクティブな知能集団として研究活動を推進するとともに、多様化する社会の要請に柔軟に対応できる研究組織の拡充強化を図ります。

大学の使命を果たすためには、学問の自由の理念に基づき、常に自らの教育研究活動に対する点検・評価を行い、新たな知的創造に向けての努力を行います。

また、大学院における教育研究活動をさらに推進し、地域に密着した個性的な研究及び国際的レベルの独創的な研究を重点的に育成するとともに、人類に共通な知的財産の継承発展や社会貢献を目指す学問領域も大切に学風の構築を行います。

学部の枠を超えた研究活動「プロジェクト研究推進機構」

自然環境と人間の調和を実現する先端的研究

次のような領域について全学的に取り組むべき具体的研究テーマを設定し、本学の特徴ある研究を集中的な経費配分のもとで推進しています。

- 地域社会の課題に対応し、産学官が連携して学術的・文化的・経済的価値を創出する研究
- 医学系と人文社会科学系、自然科学系、工学系の連携融合によって新たな展開が期待される過疎・高齢化等の諸問題の解決をめざした研究
- 本学の研究業績の蓄積・立地条件等を活かした国際的に通用する創造的な研究

重点的に取り組む研究プロジェクトは「プロジェクト研究推進機構」の次のような各部門に位置づけられ、期限と目標を明確にして集中的に進められます。

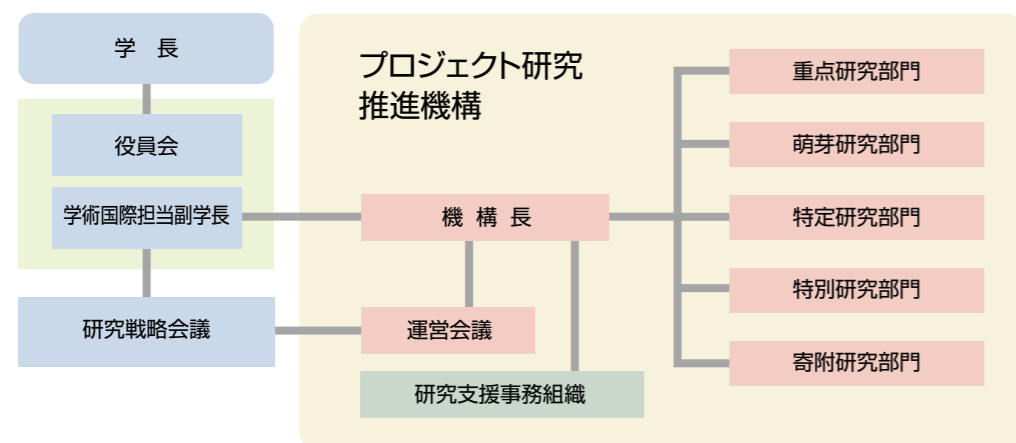
重点研究部門 中期計画に沿った具体的研究テーマを学際的に推進し、本学の特色ある研究として国際的な研究拠点をめざす研究プロジェクトで構成されます。

萌芽研究部門 数人規模の個別テーマや小規模な学際的テーマで、近い将来本学の重点研究プロジェクトへの発展が期待される研究プロジェクトで構成されます。

特定研究部門 本学が地域貢献、国際貢献などの目的で政策的に取り組むべき研究プロジェクトで構成されます。

特別研究部門 既に外部資金等を獲得している研究のうち本学が重要な研究と位置付け学内外に可視化する研究プロジェクトで構成されます。

寄附研究部門 外部からの寄附によって設置される研究プロジェクトで構成されます。



重点研究プロジェクト

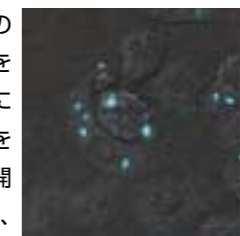
S-匠ナノメディシンプロジェクト

島根大学発のナノテクノロジーを用い低コストで安全な新しい診断・治療の基礎技術開発を目指す

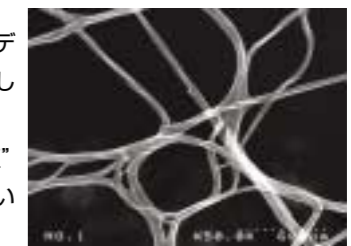
高齢化が進む地域で患者の割合が増加するがんやアルツハイマー型認知症の診断・治療に有効な高度医療技術は高額な治療薬や設備が必要で、患者負担を増加させる問題があります。本プロジェクトでは、これまでに島根大学が世界に先駆けて開発してきた「低コスト」「簡易」「実用性」を兼ね備えた材料技術をもとに、「安心」「安全」で高機能な地域に貢献できる独自のナノ医療技術を開発します。プロジェクト名の「S」は島根大学、安全 (Safe)、簡易 (Simple)、経費と時間の節約 (Save) を意味します。

ここで用いるのはベビーパウダーの原料である酸化亜鉛やデザートで食べられるナタデココ、ゼリーなどの身近で安全な材料です。これらが持つ発光や薬物保持の機能を応用してがんの早期診断・治療などの画期的な技術が生まれつつあります。

これらの技術は材料作製から臨床応用までが小規模な施設で完結でき、町工場の職人「匠」に通じる総合的な技術伝承が可能であり、本プロジェクトは医・理工・農連携による新しい教育研究分野の人材育成も目指しています。



酸化亜鉛系蛍光標識剤で生きた細胞の動画撮影に成功(取り込んだ酸化亜鉛の蛍光を発するマウスの細胞)。がんの早期診断への応用が期待できる。



バクテリアがつくるナノサイズの繊維であるナタデココ(走査型電子顕微鏡写真)。これを用いた電気泳動による高速診断技術や抗菌薬含有骨セメントなどの開発が進行中。

地域資源循環型社会の構築

「しまね型」の持続可能で活力ある地域を目指す

島根県内の優れた地域資源を発掘し、その循環利用のあり方を考究し、持続可能な地域資源循環型社会の構築を目指します。本プロジェクトでは6つのサブグループが連携しながら研究を進めています。

- 1) 宍道湖・中海における、機関・情報ネットワークの構築、生息場所のモニタリング、有用水産生物資源バンクの開発、
- 2) 循環型社会を見据えた流域の統合的な管理、
- 3) 水環境修復技術および貴重資源循環利用技術の開発、
- 4) 持続可能な農業基盤施設の機能保全と自然再生技術等の開発を行っています。加えて、木材、堆肥、汚泥等のバイオマス利活用に着目し、
- 5) 物質利用およびバイオエネルギーとしての循環利用、
- 6) 低環境負荷型栽培体系と資源の高度利用を提案しています。

これまで、中海本庄水域の堤防開削による環境への影響評価、人工マクロポアによる劣化土壌への水分の蓄積と植物バイオマスの増加、ハイドロタルサイト化合物による排水からのリン回収・再資源化や地域未利用資源を用いた水環境修復資材の開発、変状を生じた水路トンネルを補強なしで継続使用する工法の研究開発、等の成果を得ています。そして、NPO法人菌体肥料・未利用有機資源利用促進協会を発足させ、余剰汚泥やヘドロの加熱還元による炭化水素エネルギー資源の抽出と利用の実用化のため研究を進めるとともに、菌体肥料を利用した農産物栽培を行い、農産物の品質および環境への影響を調査しました。また、生物資源科学研究科で行っている地域再生人材創出拠点の形成事業やそのリカレント特別コースと連携し、地域再生に資する人材の創出も目指しています。



3 地域問題の解決に向けた 社会貢献活動の推進

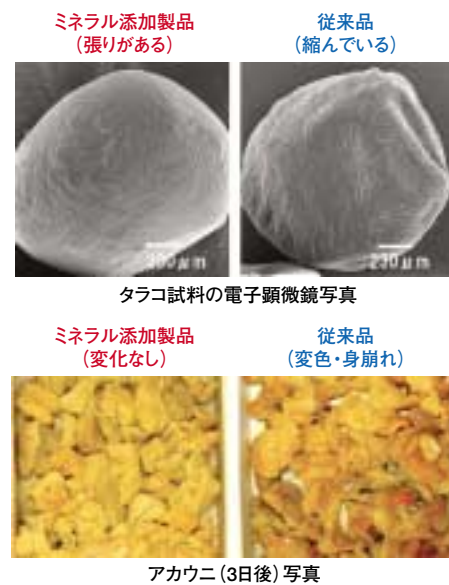


山陰地域・環日本海地域という本学の置かれる地域の歴史的・地理的特性を生かして、人類に共通の財産としての学術・文化の継承発展を担い、さらに、地域固有のテーマに関する知的創造を通じて普遍的な真理を探究するとともに、本学が有する知的財産を活用して、教育・研究・文化の拠点として地域社会の発展に貢献します。このため、大学全体として地域のニーズに応える体制を構築することにより、地域に必要とされ、信頼される大学を目指します。

産学連携の具体例

産学連携による植物抽出ミネラルの 食品分野への用途開発と人材育成

生物資源科学部(産学連携センター地域共同研究部門長)の佐藤利夫教授と同学部の大島朗伸准教授は、島根県健康食品産業創出プロジェクトの参加企業である株式会社やつか共同研究により、同社が多種類の野草類から特殊製法により製造した「植物抽出ミネラル」が有する多様な効果を実証し、幅広い用途開発を行いました。この「植物抽出ミネラル」には鮮度保持効果、素材の旨み成分を引き出す抽出効果、素材の色を自然のまま引き出し維持する発色維持効果、また強い還元力による酸化劣化防止効果や種々の微生物に対する殺菌効果等があり、高品質な辛子明太子、カラスミ等の魚卵塩蔵品、練り製品、塩干品の製造、また生ウニの身崩れ防止や生野菜・カット野菜の褐変防止等にも応用が期待され、消費者に安全・安心・高品質な食品を提供する素材として注目を集めています。本成果は日本海水学会および日本水産学会にて学会発表・論文公表されています。また同社の門脇社長は、佐藤教授の指導を受けて本学大学院生物資源科学研究科にて初の社会人学生として学位を取得しており(平成21年度修了)、また同年に「ニッポン新事業創出大賞アントレプレナー部門特別賞(ニッポンニュービジネス協議会連合会)」を受賞しています。



環境問題の解決と住環境の向上を目指す木炭の利用技術の開発



床下用調湿木炭「炭八」を敷設した床下



天井用調湿木炭「炭八」を敷設した「炭の家」の内部

出雲土建株式会社、出雲カーボン株式会社(出雲市)と島根大学の様々な分野の教員とが共同研究を行い、住環境における木炭の利用技術の開発を進めています。産学連携センターや総合理工学部の教員との共同研究では、廃木材を原料に床下や居住空間で調湿材として利用できる高性能な木炭を製造する技術を開発し、「炭八」として商品化に成功しました。また、医学部との共同研究では、この木炭を敷設した室内で過ごした方にアトピー性皮膚炎や小児喘息の改善が見られることを確認しています。これらの成果が認められ、第2回新事業創出大賞アントレプレナー部門優秀賞(2007年)など多くの賞を受賞しました。現在、この木炭を効果的に利用することで除湿、カビ・ダニの発生抑制、防音、省エネなどに効果のある「炭の家」(賃貸マンション)を開発し出雲市を中心に建設が進められ、住環境の改善や地球環境問題の対応につながる技術として多方面から注目を集めています。さらに、共同研究の成果は、日本建築学会や日本皮膚アレルギー学会など多数の学会で発表されており、学術研究の発展にも貢献しています。

共同研究担当教員/医学部:森田 栄伸教授、竹谷 健講師、総合理工学部:中尾 哲也教授、中井 毅尚准教授、産学連携センター:北村 寿宏教授

生活習慣病とアレルギー疾患を予防する「えごま玉子」の研究開発

医学部橋本道男准教授・森田栄伸教授と生物資源科学部栗野貴子助教は、n-3脂肪酸である α -リノレン酸やドコサヘキサエン酸(DHA)が多く含まれる「えごま玉子」を島根県、(有)旭養鶏舎、(株)山陰ネッカーリッチ、JA石見銀山等と共同開発・商品化し、販売しました。2007年に島根大学生物資源科学部栗野貴子助教と医学部橋本道男准教授はエゴマ種子混合餌で鶏を飼育し産出された卵には、その機能が注目されている α -リノレン酸やDHAが多く含まれることを実証し、2008年には島根県商工連合会の「しまね地域資源産業活性化基金助成交付金事業」として採択されました。その事業により、(有)旭養鶏舎において産出された α -リノレン酸強化鶏卵を毎日2個ずつ102名の被験者に供与し、血液中の生化学的的一般検査に加えアレルギー抗体価と脂肪酸分析を行ないました。その結果、6ヶ月間「えごま玉子」を摂取することで赤血球膜の α -リノレン酸やDHA等のn-3脂肪酸が増加し、血糖値の上昇が抑制され、さらには血清抗原特異的IgE値が低下することがわかりました。2009年9月から(有)旭養鶏舎が α -リノレン酸強化鶏卵「しまねのえごま玉子」として販売を開始、全国に販売拡大を図っています。この「えごま玉子」が地域振興への貢献により、平成21年度島根県の「安全で美味しい島根の特産品」第一号に認証されました。



地域に飛び出す学生たち



市民レガッタ

スポーツを通じた交流

ボート部は水の都ならではの行事「レガッタ」の運営に参加するとともに、ボート競技の普及活動に積極的に関わっています。さらに各種スポーツ競技団体は、地域で開催される協議会へ補助員として参加、また学校等に出向いて学童に実技指導等を行っています。



ボランティア活動

ボランティアに取り組む学生が多いのも島大の特徴の1つです。療養所や保育園との交流、遊びを通じて世代間交流を図るプレプレまつえキッズ、献血推進サークル「くっば」等々、笑顔と心で地域との交流を深めています。またボランティア活動やサークル活動などの正課以外の諸活動を頑張る学生にポイントを付与することにより応援する、ピットポイントという大学独自の制度があります。

<http://shiengp2.shimane-u.ac.jp>

大学の開放

公開講座

島根大学には市民に開放された施設、そしてバラエティーに富んだ公開講座が用意されています。生涯学習教育研究センターを中心に、これまで県内の多くの市町村において公開講座を実施しました。これからも様々な講座を企画し、地域の生涯学習意欲に応えていきたいと考えています。



津田カブの栽培と加工



大災害における新たな環境整備に向けて

子ども硬式テニス教室

油彩画実技講座

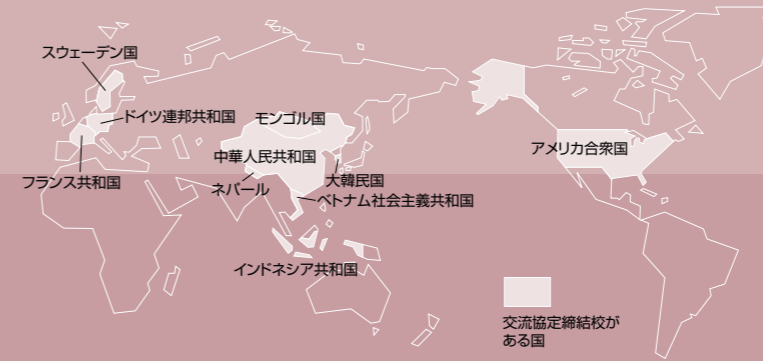


春・秋の農場祭り

松江市上本庄町の「附属生物資源教育研究センター」(通称:本庄農場)において、春と秋に農場祭りを実施しています。地域の人々にとっても恒例行事となっています。

University Identity

アジアをはじめとする 諸外国との交流の推進



最先端の学術・文化に関する情報を世界に発信するとともに、研究者・技術者・学生による学術・技術・文化の交流を通じて国際社会に貢献します。特に、環日本海地域との国際共同研究、学術交流及び留学生交流に重点を置きます。

人情に厚く、住みやすい島根県に所在する本学の歴史的・地理的特性を生かして、日本の自然と文化に触れさせ、外国人研究者との共同研究や「未来からの大使」としての留学生の教育や交流などを通じて大学の最新情報を世界に発信します。

学術交流

島根大学では、研究者の自由な学術研究活動により、様々な共同研究や国際プロジェクトを実施しています。相手国の大学や研究機関から留学生や研修員を本学に一定期間受入れを行い、より前進した共同研究やプロジェクト、先進的な技術面の普及支援を展開しています。また、本学の位置する地理的特性を活かして、環日本海地域の文化交流、自然環境についての国際共同研究、ワークショップ、国際会議を行っています。

中国 寧夏大学及び寧夏医科大学との連携による学術交流

島根大学は、中国の寧夏回族自治区にある寧夏大学及び寧夏医科大学と長年にわたり、学術交流を行っています。寧夏大学の構内には、島根大学・寧夏大学国際共同研究所を設置し、本学はここを中国西部地域研究の拠点として、日中間の共同研究及び人材育成を推進しています。また寧夏医科大学とは、医療技術及び医療に関する教育の交流を行うとともに、新たな医療技術の開発などを積極的に進めています。



寧夏大学長が山本学長を表敬訪問(2009年11月25日)



米国 アーカンソー大学との連携による春期海外研修

アーカンソー大学で毎年春に本学の学生が約3週間の海外研修を行っています。この研修はアーカンソー大学英語学習センターでの授業、ホームステイ体験、カンパセーションパートナーとの交流、豊かな自然環境の中での野外活動など、様々な体験を通し、実践的な生きた英語を学びます。

レセプションの様子(2010年2月)

交流協定締結校

2010.5.1現在

大学等名	国名	協定締結日	大学等名	国名	協定締結日
セントラル・ワシントン大学	アメリカ合衆国	1982. 3.26	中国人民大学	中華人民共和国	2005. 4.14
ケント州立大学	//	1982. 8.31	山東大学	//	2005. 7.20
カリフォルニア大学デビス校	//	1986. 2.11	浙江大学教育学院	//	2006. 3.31
アーカンソー大学	//	1993. 3. 1	釜山教育大学校	大韓民国	1990. 3.23
コロラド・デンバー大学医学部	//	2006. 2.23	慶尚大学校	//	1991. 3. 5
テキサス大学ダラス校	//	2007. 8.10	慶北大学校	//	1991. 3. 6
フロリダ大学教養学部言語文学文化学科	//	2009.12. 4	ソウル産業大学校	//	1998. 4.22
東北林業大学	中華人民共和国	1989.12.28	延世大学校	//	1989. 6. 3
南京林業大学	//	1993. 4.15	ジャン・ムーラン・リヨン第3大学	フランス	1990.11.24
中国農業大学	//	1996.12.29	オルレアン大学	//	2002. 7.12
寧夏大学	//	1997. 8.18	モンゴル科学技術大学	モンゴル	1999. 3.24
北京林業大学	//	1997. 8.23	モンゴル健康科学大学	//	2002.10. 4
吉林大学	//	1999. 2. 1	トリブバン大学	ネパール	1991.12. 8
河北師範大学	//	2002. 7.29	アングラス大学	インドネシア	1997. 5. 6
大連大学	//	2003. 6.30	ハノイ医科大学	ベトナム	2005.10.17
上海交通大学医学院	//	1987. 6.27	トリア大学第二学部	ドイツ	2008.11.20
寧夏医科大学	//	2004. 2.27	リンショーピン大学	スウェーデン	2005. 4.21
北京師範大学	//	2004. 3.18			

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

1987年、本学農学部(現生物資源科学部)の教員が外国人として初めて中国寧夏回族自治区南部山区に入り学術調査を行いました。それがきっかけとなり、本学と寧夏大学との研究交流が始まりました。研究交流開始10周年にあたる1997年には、両大学間で交流協定が締結されました。2005年9月には、両大学間で長年続けてきた研究交流を本格発展させると共に、人材育成事業に協力するため、寧夏大学キャンパス内に島根大学・寧夏大学国際共同研究所が完成しました。この研究所では、都市と農村との地域間格差問題、中山間地域(条件不利地域)の活性化、開発と環境問題などを主要なテーマとして共同研究を行い、これまで数回にわたって学際的な国際シンポジウムを開催してきました。2009年11月には、『条件不利地区の振興と持続的な発展』をテーマにした国際シンポジウムを開催しました。

このシンポジウムでは、農業・農村の振興と持続可能な発展に関する実証的研究等の報告や医学・公衆衛生分野の観点から農村開発と生活福祉に関する提案が両大学の研究者から行われ、新たな研究交流の萌芽が見られました。島根大学は今後も当研究所での研究成果を世界に発信するとともに、国際交流と人材育成を積極的に展開し、当研究所を中国・西部地域研究の拠点として活用していく予定です。



研究所の業務内容

- 研究事業(主なテーマ)
 - 「寧夏南部山区と日本の中山間地域の持続可能な発展に関する研究」
 - 「生態系・環境の保護と再生に関する調査研究」
 - 「農村経済と社会発展の比較研究に関する調査研究」等
- 学術交流、国際学術フォーラムの開催(日本・中国)
- 図書資料の蓄積と提供
- 島根県、松江市等の国際交流事業への協力



学問の自由と人権の尊重、 社会の信頼に応える大学運営



教育研究環境の向上・充実を図るために、教員組織と事務組織その他全ての職員組織を有機的に機能させ、大学においては学生へのサービス体制と教育研究、附属病院においては教育研究及び医療を重視した管理運営を目指します。このため、本学独自の多角的な自己点検・評価及び外部評価を活用し、学長のリーダーシップと補佐体制の充実による企画・立案機能の向上と迅速かつ合理的に目標や計画の実行が可能となる管理運営組織を構築するとともに、その責任体制を明確にします。

また、教職員・学生の声反映され、透明性のある管理運営を行うとともに、教職員にとって働きがいのある職場環境の充実を図ります。

学生・教職員みんなの「声」が創る島根大学



学生の意見を大学教育改善に取り入れるための全学的取り組みは、教育開発センターを中心として2002年度より「学生との意見交換会」として開始されました。その後「学生による教育座談会—語ろう!島根大学—」(2006年度～)、「We are 島大生!」(2008年度～)へと常に進化していています。この企画は、島根大学で学ぶ過程で抱く様々な疑問や葛藤等について、学部・学科・学年の枠を超えて議論・発表することを通じて、教育・学修環境改善の示唆を得ることや、島大生としてのアイデンティティ・所属意識を高め、自信を付けて主体的に大学での学びに取り組んでもらうことを目指しています。更に「We cam. プロジェクト」なる組織を立ち上げて学生メンバーと一緒に企画・運営しています。「あなたが動けば『授業』は変わる!」(2008年度)、「あなたが動けば『大学生活』は変わる!」(2009年度)とメインテーマを設定し、ワークショップやゲームを交えて参加者間で議論・発表を行います。今後もこうした場を設定し、学生の声を真摯に受け止めながら、本学の教育の発展に寄与するべく様々な活動を展開していきたいと思ひます。

環境に関する島根大学の社会貢献

コミュニケーション

島根大学では、地域社会の一員として、地域のみなさんの環境問題に関する声に耳を傾けます。また、環境教育・研究の成果を地域に向けて発信していきます。学内のコミュニケーションについては、「キャンパス環境投書箱」をweb上(学外からはアクセスできません)に設置したり、屋外でランチミーティングを開催したりして学内の環境問題について広く学生・教職員の意見を集約しています。



①地域社会とのコミュニケーション

地域のみなさんの声は、EMS実施委員会で審議・調査しています。これらの声に基づき、国道沿いにはみ出していた樹木のせん定や自転車マナーの向上の指導・周知を行いました。

②学内とのコミュニケーション

学内の環境問題等に対して教職員、学生の皆さんからご意見・お問い合わせ等を投稿いただく「キャンパス環境投書箱」を設置しています。島根大学ホームページからアクセスできます(学外からはアクセスできません)。投稿内容は、EMS委員会で検討されます。①緑地等の自然環境の保全、②廃棄物の減量化、処理及び再資源化、③省エネルギー、④交通問題対策、⑤環境教育、⑥環境マネジメントシステム、⑦その他学内環境の改善、の事項についてご意見・お問い合わせを受け付けています。

第三者評価について



全国初、附属病院を含む全学でISO14001の認証取得

松江キャンパスでは、2006年3月に川津地区についてISO14001の認証を取得しました。2007年3月には大輪地区(附属小学校、附属中学校、附属幼稚園)及び本庄地区(本庄総合農場)も認証され、認証範囲を拡大しました。2008年3月には出雲キャンパスについても認証され、全学での認証を取得しました。

医学部及び附属病院を含む大学全体としての認証取得は、国公立大学の中でも全国初のことであり、これを機に今後も環境に配慮した活動に努めます。

医学部附属病院が「働きやすい病院評価」及びプライバシーマーク(JIS Q 15001)の認証を取得

医学部附属病院では、特定非営利活動法人「女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会」(ejnet)が行う「働きやすい病院評価」の認証を平成19年3月11日に取得しました。全国の大学病院では初めてであり、全病院を通して全国で6番目の認証取得となるものです。「働きやすい病院評価」の認証を取得することにより、医師、看護師、復職希望の女性医師等医療従事者への認知度の高まりを期待し、そのことによって優秀な人材の確保を行うとともに、患者さんの信頼感・安心感の醸成、ひいては患者さんに選ばれる病院となることを目的としているものですが、病院内保育所の設置、「女性にやさしい病院ワーキング・グループ」の設置等を通して、病院長を中心とした就労環境改善への前向きな姿勢が評価されたものと思ひます。

また、医学部附属病院では、平成19年2月23日に全国の大学病院では2番目となる「プライバシーマーク(JIS Q15001)」を取得しました。「プライバシーマーク(JIS Q15001)」とは、事業者が個人情報保護の取扱いを適切に行う体制を整備していることを証明するものであり、プライバシーマークを病院ホームページや院内等に表示することにより、今後とも、患者さんの個人情報の保護に関する意識の向上に努めます。





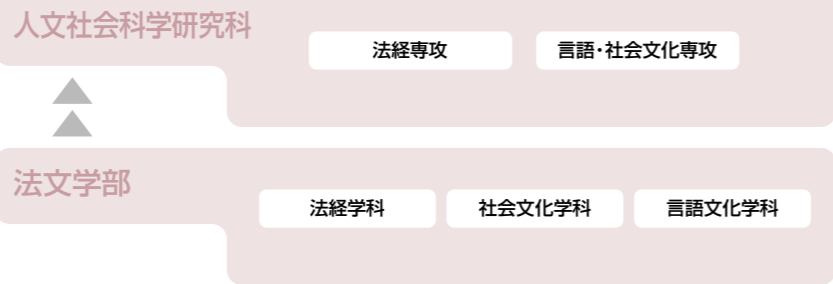
法文学部 人文社会科学研究科

Faculty of Law and Literature
Graduate School of Humanities and Social Science



人を知り、人を創る

私たちは、他者との関わりのなかで自己という存在を強く意識しヒトから人へと成長していきます。人を知り、人を創る技を磨くことが、社会を、国家を、世界を知ることにつながっていくのです。全国屈指の少人数教育に情報技術や国際交流をとり入れた法文学部をステップとして、世界へ、人間探求へと飛躍してください。



●詳しくは<http://www.hobun.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

法経学科

法経学科では、経済学と法学の両面から社会について学び、民間企業の法務・金融担当者や司法書士、行政書士等の法律経済関係の専門、一般職に就く人を育成するだけでなく、法科大学院やビジネススクール、研究者養成大学院等に進学する人を育成します。また地域には、環境、少子高齢化、地方分権、中山間地域、地域振興等、解決すべき課題が山積みしています。これらの課題の解決に必要とされる法学・経済学の基礎的な知識と応用力を身につけ、分析能力・政策立案能力や問題処理能力を養うことによって、国・地方公共団体等の行政部門やNPOで活躍できる人を育成します。

法廷教室における専門演習(民事模擬裁判)の光景



社会文化学科



社会文化学科は現代社会・歴史と考古・福祉社会の3つのコースに分かれています。コースの所属は入学後、志望及び成績に基づいて決定されます。

現代社会コース

人間と環境、地域と人間の相互関係、地域社会の構造や機能、文化の特徴などを体系的に理解する視点を養います。座学中心の講義や演習に加えて、実験や観察、社会調査やフィールドワークなどの実習を通してデータ収集と分析技法を実践的に学びます。

歴史と考古コース

歴史学では、日本史、東洋史、西洋史、現代史について専門的に学び、考古学では、日本考古学を中心に学び、理論と実地調査双方への認識を培うことができます。研究室は学生によって自主的に運営されており、テーマを選んで主催される自主ゼミのほか、研修旅行なども毎年企画されています。

福祉社会コース

福祉社会コースは、現代社会の重要テーマである社会福祉の問題に取り組み、地域社会に貢献できる人材養成のために設置されました。講義や演習に加え、福祉現場での実習を通して社会福祉の全体像を学ぶことができます。本コースでは所定の科目を履修すれば、社会福祉士国家試験の受験資格が取得できます。



言語文化学科

日本東アジア言語文化分野

日本語学・日本文学の分野では、古代から現代にいたるまでの日本語と、それによって生み出された文学について幅広く学ぶことができます。中国語学・中国文学の分野では、遠く神話、甲骨文字の時代から、現在活躍中の中国作家の作品にいたるまで、広く研究することができます。



英米・ヨーロッパ言語文化分野

【英米言語文化】文学作品を鑑賞しながら分析方法を学んだり、日米文化を比較することで異文化理解を深めます。また、英語を母国語とする教員を中心に発信型の英語コミュニケーション能力の向上を目指します。

【ドイツ文化】ドイツ語の読解力と表現力を涵養し、ドイツ及びドイツ語圏の文化を広く勉強し、幅広い視野と分析力を身につけます。

【フランス文化】フランスの文学や文化テキストについて、文法的及び内容的な読解力や分析力を身につけます。交流協定大学への留学を視野に入れた実践的な指導もあります。

文化の創造と理解分野

人が生み出したものを理解し、その理解をもとにしてさらに創造する—この分野では、継承・衝突・創造が繰り返す人間の文化活動を研究の対象にします。また、芸術・文学・映画・音楽などの作品にも実際に触れながら、文化理解のための技術を習得していきます。

大学院 人文社会科学研究科

- 法経専攻(法政コース・地域経済コース)
- 言語・社会文化専攻(言語文化コース・社会文化コース)

入学した大学院生は、各自の研究課題や修了後に目指す進路に応じた4コース(法政コース、地域経済コース、言語文化コース、社会文化コース)のいずれかに属し研究のスキルをみがき、各分野の高度な専門的知識と技法を習得します。さらに、学際的・国際的な研究を通じて、総合的実践的能力を育むことも目指します。

●詳しくは<http://www.hobun.shimane-u.ac.jp/graduate/index.html>をご覧ください。

教育学部 教育学研究科



■ 初等教育開発専攻

「小学校教育のプロフェッショナル」の養成をめざします。

■ 特別支援教育専攻

心身に障害をもつ幼児・児童・生徒などを対象にした、個人差を配慮した指導の基礎となる知識や指導力を身につけた教師を育成します。

■ 心理・臨床専攻

学校教育のさまざまな側面に、心理学の視点、専門的立場から積極的に働きかけていける教師の育成をめざします。

■ 言語教育専攻

＜国語教育コース＞日本語学、日本文学、漢文学、書写・書道、国語科教育学の5分野で専門的授業や卒業研究などを行っています。

＜英語教育コース＞英語教育の理論と実践を学ぶのはもちろんのこと、英米文学の原典に触れたり、会話や作文を通しての英語運用能力向上にも力を入れています。

■ 共生社会教育専攻

歴史学、地理学、政治学、社会学、宗教学、社会科教育学等の専門分野に立脚した教科内容の研究能力を育成します。



■ 自然環境教育専攻

子ども達の知的好奇心を刺激し、自然を探究する楽しさを味わうことのできる指導法や教材開発について学びます。

■ 数理基礎教育専攻

数学についてより深い理解と、問題や課題、教材をみつける目を養い、的確な説明や指導のできる教員の育成を目指します。

■ 人間生活環境教育専攻

教員の養成基盤を「暮らし」、「環境」と「ものづくり」に置き、人間生活の基盤である生活環境や、環境を通じた教育の在り方を深く学びます。それらを通じて、ゆとりと潤いのある社会を創造するための理論と技術について学びます。子どもたちの創造力と生きる力を引き出し、はぐくむための「人間力」を養い、深い専門性と実践力を持った教員を養成します。



■ 健康・スポーツ教育専攻

健康科学やスポーツ科学の成果を踏まえ、学校や地域における健康・スポーツ教育を推進しうる教員の養成を目指します。

■ 音楽教育専攻

声楽、ピアノ、管弦打楽器、作曲、音楽教育学の各分野について、専科として1つの分野を深く追求するとともに、副科として幅広い分野も学びます。

■ 美術教育専攻

基礎造形能力の修得、専門性の深化、豊富な臨床的教育体験による美術教育理論と実践的授業展開力の強化などをめざした幅広いカリキュラムを用意しています。



Faculty of Education Graduate School of Education



体験が育む、プロの教育実践力

教員養成に特化した専門学部

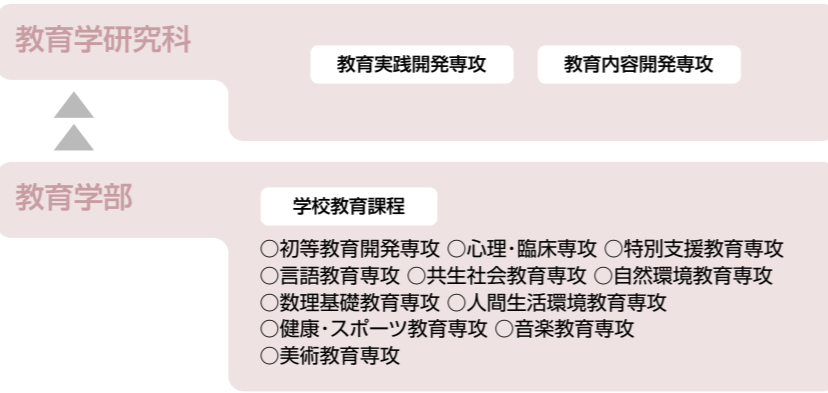
教育学部は、全国的な教員養成学部の再編・統合の先駆けとして、21世紀の教育改革をリードし、地域の教育課題の解明と解決に積極的にかかわる、山陰地域唯一の教員養成専門学部生まれ変わりました。

＜主専攻・副専攻＞方式学修システム

「専門科学教育科目」、「教科教育学」、「教科内容構成研究」に「卒業研究」を加えた11のパッケージ型カリキュラム（専攻）を設定しています。これらの専攻の中から1つの主専攻と副専攻を選択するという＜主専攻・副専攻＞学修システムを導入することで、一人ひとりの目的や関心、取得しようとする教員免許に応じて、さまざまな学びのかたちが実現します。

1,000時間教育体験学修の必修化

子どもとふれあう生きた体験学修を重視して、県内外の教育関連機関の協力のもと、学校教育外での教育・指導体験を中心とする「基礎体験」、「臨床・カウンセリング体験」、附属学校園における教育実習を中心とする「学校教育体験」の総計1,000時間の体験学修プログラムを必修とし、多様な体験活動に裏打ちされた教育実践力の向上を図ります。



●詳しくは<http://www.edu.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

大学院 教育学研究科

●教育実践開発専攻 ●教育内容開発専攻

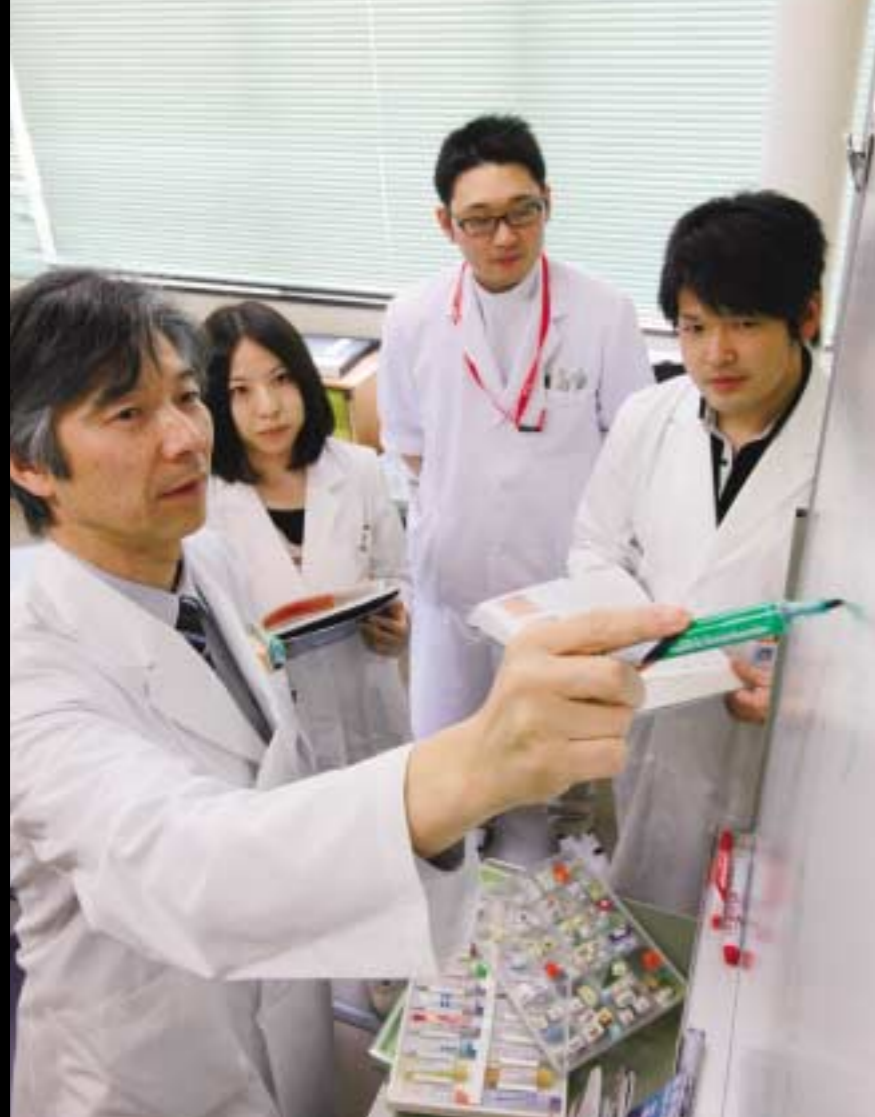
急速に国際化、情報化が進展する現代社会において、新しい時代を担うべき優れた教員を養成することが重要な課題となっています。本研究科は、「スクール・リーダー」となる高度な資質を有する学校教員の養成を目的とし、山陰地域における教員養成基幹大学院として現職教員および学部卒業生の双方を対象に高度な専門性に裏打ちされた、地域の教育界を担う人材の育成を目指しています。そのために、学校教育現場における学校教育研究、授業研究の力を養成する「教育実践研究」科目を開設するなど、学部教育のカリキュラムとの有機的関連性を重視しています。また、教職経験3年以上の現職教員を対象に、通常の2年課程に替る「1年短期履修コース」を設置し、教育課程・教育方法等に特段の措置を講じることで現職教員が自ら求める専門職性の向上に努めています。

●詳しくは<http://edu.shimane-u.ac.jp/edu/ln-gaiyou.html>をご覧ください。



附属幼稚園・小学校・中学校

子どもたちの確かな学力と豊かな人間性の育成をめざし、平成20年4月より、幼稚園、小学校と中学校という11年間の一貫教育を実施しています。また、教育学部との連携のもと、教育の実践的研究および教育実習を行う機関として重要な役割を担っているとともに、新しい教育とその成果によって、地域に貢献しています。



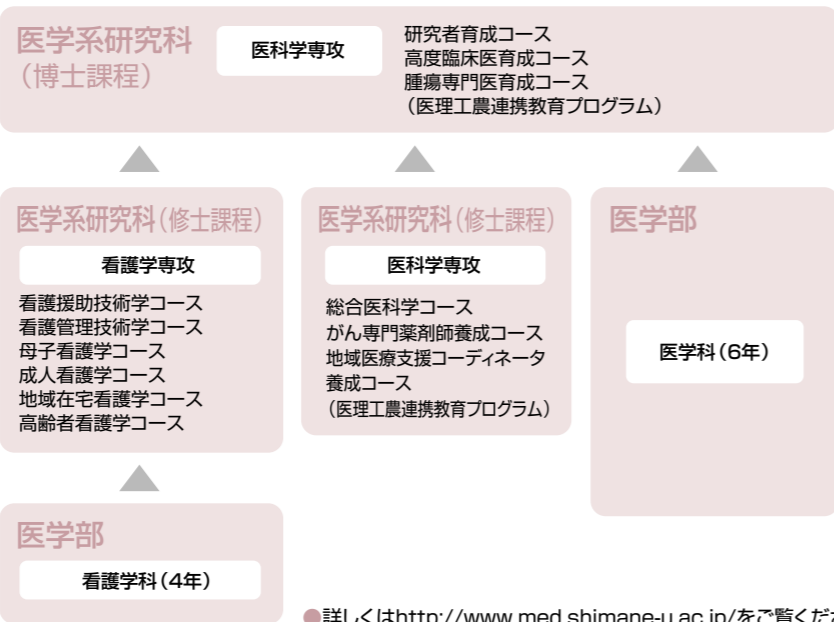
医学部 医学系研究科

Faculty of Medicine Graduate School of Medical Research



次世代を担う医療人の育成と 先進医療の地域への還元

生命の尊厳と患者の権利・人格の尊重を教育の柱とし、
広い教養と高い倫理観を身につけ、科学的な探求心と総合的な判断能力を養い、
時代の要請に応じて地域に貢献する医師・看護師を養成することを目指しています。



医学科

人の心がわかる優しさを備え、人々の健全な生活と健康増進に貢献しようとする強い意思をもち、とりわけ地域医療に寄与できる医師の育成を目指しています。全国に先駆けて、へき地出身者を対象とした地域枠推薦入試を行い、入学後は



地域医療の現場体験学習を重視して、県内の医療機関や福祉施設等において早期医学体験実習や地域医療病院実習を行っています。また、少人数グループによる問題解決型チュートリアル教育を臨床医学教育に導入しています。卒業生は、医師国家試験合格後、大病院あるいは臨床研修指定病院で臨床研修を行った後、研修を続けながら第一線の医療に従事します。大学院(博士課程)に進学して、研究者あるいは高度臨床医・腫瘍専門医を目指す道も開かれています。



看護学科

医療の高度化が急速に進展する一方、高齢社会の到来によって、近年、人々の看護に対するニーズは益々増大し、多様化してきています。看護学科ではこうした社会の要請に応え、一人ひとりのニーズを的確に把握し、適切に援助していくことのできる専門性の



高い有能な看護職を養成したいと考えています。この目標を達成していくために、教育の重点として、第一に、自分で考え課題を解決していく能力、科学的に追求する能力を育むように、少人数による課題解決型の演習授業を多く取り入れ、4年次にはその集大成として「卒業研究」を課しています。第二に、病院や保健所、社会福祉施設等実際の場面で学ぶ臨地実習に力を入れており、実習を通して、対象者から学び、対象者とともに考え、実践していく能力を育成するよう指導しています。



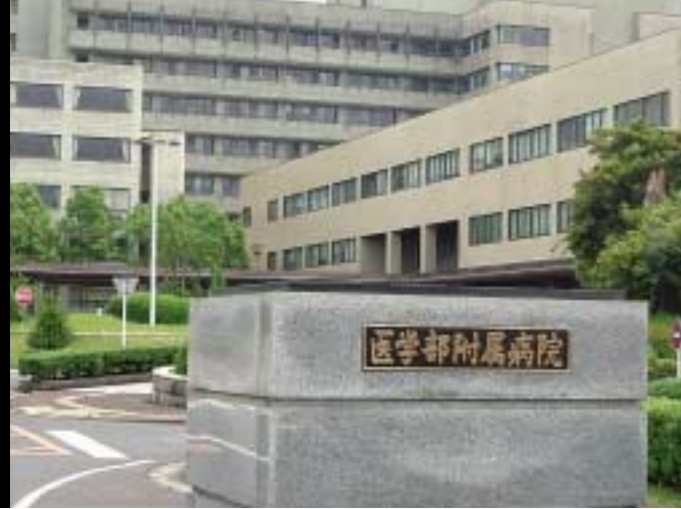
大学院 医学系研究科

- 《博士課程》●医科学専攻
○研究者育成コース ○高度臨床医育成コース ○腫瘍専門医育成コース
- 《修士課程》●医科学専攻
○総合医科学コース ○がん専門薬剤師養成コース ○地域医療支援コーディネータ養成コース
- 看護学専攻
○看護援助技術学コース ○看護管理技術学コース
○母子看護学コース ○成人看護学コース
○地域在宅看護学コース ○高齢者看護学コース

医学及び看護学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、医学の分野においては、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を備えた優れた研究者の養成ならびに優れた研究能力を備えた臨床医・腫瘍専門医の育成を、看護学の分野においては、広い視野に立って精深な学識を授け、看護学における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力と、人間性を備えた優れた研究者又は高度専門職業人の養成を目的とし、併せて医学及び看護学の発展と人類の福祉の向上に寄与することを使命としています。



●詳しくは<http://www.med.shimane-u.ac.jp/graduate/index.html>をご覧ください。



医学部附属病院

University Hospital

理念『地域医療と先進医療が調和する大学病院』

目標

- 患者さんの視点に立った医療の提供
- 安全・安心で満足度の高い医療の実践
- 人間性豊かな思いやりのある医療人の育成
- 地域医療人とのネットワークを重視した医療の展開
- 地域社会に還元できる臨床研究の推進



病院外来棟外観

昭和54年開設以来、県下唯一の特定機能病院として医療人教育、高度医療提供、臨床研究に当たってきました。平成17年には国立大学病院として初めてがん診療連携拠点病院に指定され、都道府県がん診療連携拠点病院としてがんプロフェッショナル養成プログラムを推進中です。平成20年には肝疾患診療連携拠点病院にも指定されました。病院機能評価は元より、プライバシーマーク、大学病院初の女性医師の労働環境を評価する「働きやすい病院評価」、附属病院としては全国初のISO 14001（環境マネジメント）も取得、ESCO事業も実施しています。文科省GPで140名のスタッフ等を海外病院研修に派遣し実践的臨床教育に取り組み、米国指導医等を招聘するなど、現在も継続中です。新病棟も平成23年夏に完成します。大災害にも対応可能な多機能立体駐車場も整備しました。

●詳しくは<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/index.html>をご覧ください。



プライバシーマーク (JIS Q 15001) 更新審査に合格

平成19年2月に全国の大学病院では2番目となる「プライバシーマーク (JIS Q 15001)」を取得し、平成21年2月には更新審査に合格しました。プライバシーマークとは事業者が個人情報保護の取り扱いを適切に行う体制を整備していることを証明するものです。



「働きやすい病院評価」「病院機能評価 (Ver5.0)」

平成19年3月に、女性医師・すべての医療従事者が安心して働くことができる病院として「働きやすい病院評価」の認証を受け、平成20年3月には、病院の現状を様々な角度から確認し、基準を満たした病院として「病院機能評価」の認定を受けました。



320列 MDCT

平成22年3月、世界的にも注目されている最新の320列MDCTを導入しました。このCTの最大の特徴は、脳や心臓全体が収まる16cmの幅を瞬時(0.35秒)に撮影できることにあります。この速さは、息止めを必要としないため患者さんに優しく、そして、脳疾患や心疾患の画像診断精度を飛躍的に向上させています。また、画像解析専用のワークステーションも併せて導入し、新手法であるdual energy法を利用した画像診断の開発が期待されています。



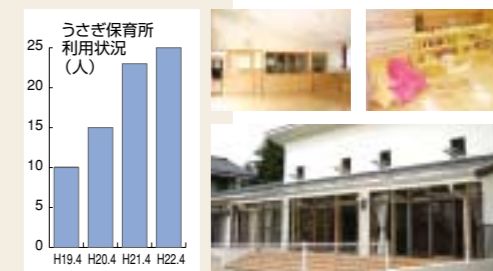
内視鏡手術トレーニングセンター

本センターは、体系的カリキュラムのもとに技能訓練を行うことで、優れた技術を備えた医師を育成し、本院並びに山陰地区の各施設で行われる内視鏡手術の安全性向上と普及を図ることを目的として平成20年3月に設立されました。



ボランティアコンサート

病院1階待合ホールで月1~2回コンサートや落語、手品など多彩なイベントを開催しており、毎月患者さんに楽しみにして頂いています。



院内保育所「うさぎ保育所」

当院における子育て支援・女性のための職場づくりの一環として、平成18年に開設しました。保育希望者の増加に伴い、平成21年5月に増改築し、定員を25名から50名へ倍増しました。



日本版Post-WWAMIプログラム

「夢と使命感を持った地域医療人の育成プログラム」の継続で、スタッフ・学生を派遣し臨床医学教育視察体験研修を行ったり、交換留学、米国指導医の招聘等を行っています。



ランチカフェ ラバン

附属病院2階にある病院食堂が平成22年4月に「ランチカフェ ラバン」としてリニューアルオープンしました。初の女性店長が、食の安全を第一に考えたヘルシーなメニューを工夫しています。



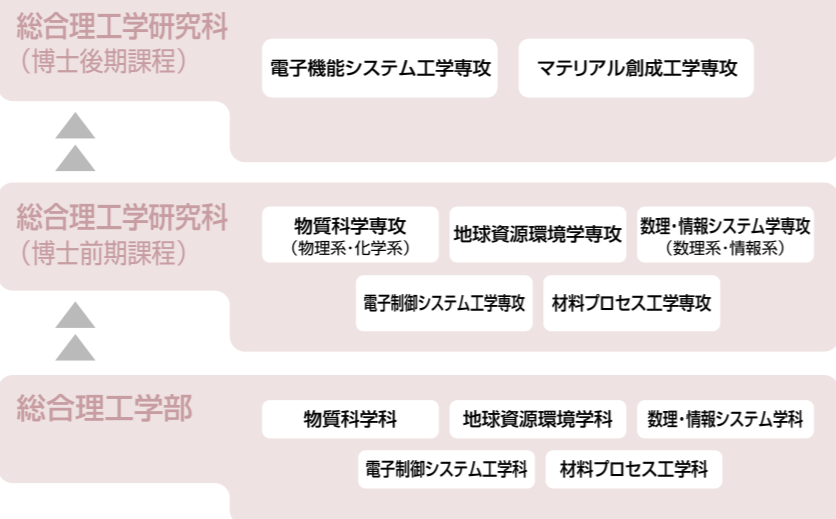
総合理工学部 総合理工学研究科

Interdisciplinary Faculty of Science and Engineering
Interdisciplinary Graduate School of Science and Engineering



科学・技術が創る人間の未来

最新の手法を駆使して自然科学を解明しようとする理学系分野と、未来の最先端科学技術を担う工学系分野が、既存の学問分野の枠を越えて1つの学部に総合、融合、一体化した全国的にもユニークな学部のひとつです。素粒子サイズから地球サイズまで、さまざまな対象を科学的に捉え、基礎理論から先端技術への応用まで幅広く扱う学際的教育・研究システムを特色としています。



●詳しくは<http://shimane-riko.jp>をご覧ください。

物質科学科

物理分野

物質科学科・物理分野では、素粒子論から新素材開発まで、物質に関する幅広い研究が行われています。ここでは物質の基礎と応用を、物理学の視点から学びます。2年次までは主として物理学の基礎科目を修得し、3年次から次第に、物理学の専門科目とともに、材料科学の専門科目を履修して行きます。卒業研究では、これらの履修に基づいて、幅広い分野を選択することが出来ます。物理分野の教育プログラムは、日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けています。



化学分野

物質科学科化学分野は、化学の基礎から応用まで深く学びたい人、新機能を持つ物質を研究したい人、応用技術を修得したい人のための教育を提供しています。JABEE対応の技術者教育プログラムに基づき、基礎的・専門的知識を基に、自主的に仕事を立案実行できる技術者の養成を目指す機能材料化学コース、基礎から応用に及ぶバランスのとれた幅広い知識を基に、様々な分野で活躍できる人材育成を目的とした基礎化学コースがあります。



地球資源環境学科

地球資源環境学科は地球物質システム学、環境地質学、自然災害工学の3講座からなり、地質学から工学的分野まで総合的に教育・研究する、特色ある学科です。本学科では、充実した最新の研究設備を駆使して教育・研究を行っています。また、国内外の地質見学をはじめ、実験・実習を重視したカリキュラムを組んでいます。



大学院 総合理工学研究科

〔博士前期課程〕●物質科学専攻(物理系・化学系) ●地球資源環境学専攻 ●数理・情報システム学専攻(数理系・情報系)
●電子制御システム工学専攻 ●材料プロセス工学専攻

総合理工学研究科は5専攻19講座を擁し、これらの各専攻では学際領域の研究開発やそれに携わる高度技術者育成という社会要望に応え、従来の細分化された学問領域にとらわれず、科学技術の総合化を目指す新たな理工融合理念に則した研究・育成システムを実践しています。また、外国人留学生とともに修学する「英語による「地球」教育研究特別プログラム」が設置されています。さらに、理工学と医学が融合した分野の教育研究を推進するために、「理工・医連携プログラム」が設置されています。

●詳しくは<http://shimane-riko.jp/graduate/master.html>をご覧ください。

〔博士後期課程〕●マテリアル創成工学専攻 ●電子機能システム工学専攻

高度な研究開発能力を身につけ、科学技術の創造に貢献できる人材を養成します。また、「英語による「地球」教育研究特別プログラム」も設置されています。さらに、理工学と医学が融合した分野の教育研究を推進するために、「理工・医連携プログラム」が設置されています。

●詳しくは<http://shimane-riko.jp/graduate/doctor.html>をご覧ください。

数理・情報システム学科

数理分野

数理分野では数理構造コースと数理解析コースの2コースから構成されています。1年次に数学と情報の基礎を学び、2年次以降は数理系の専門科目を学びます。構造論的な抽象数学および諸現象の数理科学的な解析のための現代数学の学習を通じて、論理的な思考力と柔軟な発想力、適切な判断力および豊かな表現力を持ち合わせた、教育を含む諸分野で指導的役割を果たせる人材を育成します。



情報分野

情報分野では情報システムコースと情報工学コースの2コースから構成されています。1年次に数学と情報の基礎を学び、2年次以降は主に情報工学に関連する専門科目を学びます。ソフトウェアやハードウェアの研究開発を通じて、現実に直面する様々な困難に対しても優れた分析能力と柔軟な応用力や発想力に基づいて対処することができる優れた人材を育成すると共に、国際的に通用する技術や幅広い見識を持ち合わせた専門技術者ならびに研究者の育成にも取り組んでいます。



電子制御システム工学科

本学科は、機械工学、電気工学、および電子工学の3分野を融合した学科です。これらの分野の核心的基礎を幅広く学習した上で、各分野に対応するコースの専門科目をより深く学ぶことにより、高度情報化社会を支える技術者として必要な専門性を修得し、激動の21世紀で活躍できる人材の育成を目指しています。本学科の教育プログラムは、JABEE(日本技術者教育認定機構)の認定を受けています。



材料プロセス工学科

材料プロセス工学科の教育は、健康で快適な生活と、資源循環型社会の実現のために材料設計、プロセス設計(生産プロセス設計・循環プロセス設計)、製品設計(建築設計・機械設計)の全般に対応できる、広い知識と独創性を兼ね備えた人材の育成を目指して、教育を行っています。





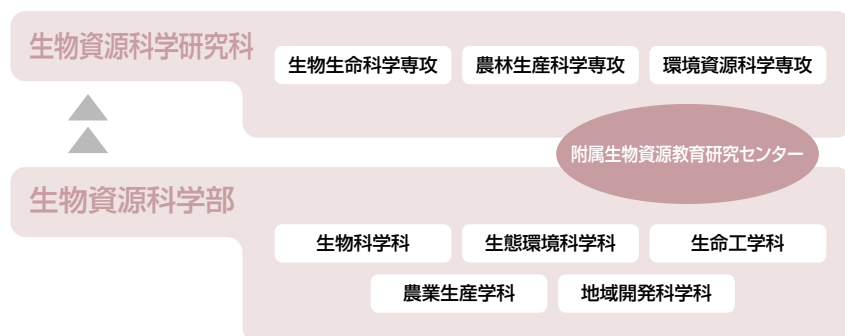
生物資源科学部 生物資源科学研究科

Faculty of Life and Environmental Science Graduate School of Life and Environmental Science



“いのち”あふれる地球を育む

本学部では、生物・生命を、人間社会と広範で多様な関係を有する存在という広い意味での資源と捉えます。そして生命現象の基本原則から、生物資源の育成、利用、開発保全とそれを育む環境に関する広い分野を教育研究の対象としています。



●詳しくは<http://www.life.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

生物科学科

生物の営みについて総合的な知識と理解力を身につけることができるよう、基礎から先端領域までをカバーするカリキュラムを用意し、幅広い視野と深い専門的実践力を兼ね備えた人材を育てます。学科は「細胞生物学講座」と「生物機能学講座」の2講座編成ですが、カリキュラムにはこの区分がなく、学科全体で分子、細胞から生物集団に至る様々なレベルの教育研究を行っています。島根県の自然を扱った研究もこれに含まれます。



生態環境科学科

生態系を保全しながら持続的に利用するためには、各種の生態系（森林、農地、水、土壌、動物、微生物など）について正確な知識を学び、人間生活と生態系との係わりをよく理解する必要があります。生態環境科学科では、生態系の保全・評価・修復・有効利用の実践と、それに貢献できる人材の育成を目的として、「環境生物学講座」「生態環境工学講座」「森林環境学講座」の3つの講座で教育・研究を行っています。



生命工学科

化学と生物を基礎的知識として、ライフサイエンスとバイオテクノロジーの分野をカバーする先端的な学問領域を包括している学科で、2つの大講座からなります。微生物、植物、動物を題材として、遺伝子やタンパク質の機能を理解し、細胞や分子レベルでの解析を通して生命現象を解明する基礎的な学問から、人類の生活や産業に貢献する医薬品や食品の開発につながる応用的な学問まで、幅広い教育と研究を行っています。



農業生産学科

地球温暖化、土壌や水質汚染などの環境悪化、食品の品質や安全性の低下、将来の食糧不足への不安など現代社会における食糧問題の解決が迫られています。農業生産学科では、社会、生産者、消費者のニーズにどのようにこたえていかなど農業をとりまく諸問題に関わり、解決していくための教育・研究を行っています。「食糧生産学講座」はカロリー・タンパク源となる農作物や畜産物の生産について、「植物資源開発学講座」は園芸作物の生産、保蔵、繁殖、品質改良について、「生産技術管理学講座」は農業現場での、効率的、先端的生産管理について研究を行っています。



地域開発科学科

豊かな地域社会、自然環境の保全および持続可能な農業と農村の創造を目指し、これらに貢献できる人材を育成するため、社会科学的側面、工学的側面からの専門教育により、知識と技術の習得を図ります。「農林・資源経済学講座」では地域社会の発展および農林水産業振興に関する教育と研究を行い、「生物環境情報工学講座」と「地域環境工学講座」では自然環境と調和して生産・生活環境を向上させる科学技術に関する教育と研究を行っています。



大学院 生物資源科学研究科

●生物生命科学専攻 ●農林生産科学専攻 ●環境資源科学専攻

大学院は独創性の高い研究者を養成する場であるのみならず、先端技術領域において高い応用力を発揮するための教育をする場としても必須となっています。生物資源科学研究科では、各専攻それぞれに「課題研究コース」、「学術研究コース」、「地域産業人育成コース」を設け、各人の志向に応じたカリキュラムの選択を可能にしています。課題研究コースでは多様な高度専門職業人を養成するための、学術研究コースでは連合大学院博士課程への進学など研究者を目指す人材を養成するための、また、地域産業人育成コースでは地域産業において指導的役割を果たす人材を養成するための教育プログラムを提供します。また、セメスター制の採用により秋入学を可能にし、社会人や留学生の利便性の向上をはかっています。

講義では研究科共通科目の必修科目として「科学方法論」や「生物資源科学論」を設け、総合科学的な視点を深めるとともに、専攻、コースに応じた研究や演習により、高い独創性と実践力、国際的な対応力を養っています。

●詳しくは<http://www.life.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

法務研究科 山陰法科大学院



社会人・未修者の教育へ 力を発揮する山陰の法科大学院

島根大学大学院法務研究科（山陰法科大学院）は、地域社会の法化の進展に寄与すると共に、国際化時代にも対応できる、高度な法的思考力と知識を有する専門ジェネラリスト的な法曹の養成を基本理念にしています。

そのために教育面では、高度で多様な専門知識の修得のみならず、法曹として生涯役立つ法的知性の基礎作り、地域社会に根ざした現実の紛争に敢然と立ち向かい解決への道筋を立てられる意欲と熱意を育む教育を重視しています。

新司法試験に合格した本学修了生の多くは社会人と純粋未修者で、社会人と法学未修者向け教育に関して成果を上げており、本学の教育実践は2008年度の認証評価で高い評価を受けています。

1 養成すべき法曹像（法科大学院の基本理念と教育目的）

- ①「国民の社会生活上の医師」として地域課題を熟知し、地域社会に深く根ざした法曹
- ②東アジアを中心とした各国法事情・国際取引等に精通し、国際社会の発展に貢献できる法曹

2 カリキュラムの基本的考え方

（法科大学院の教員組織とカリキュラムの基本的考え方）

- ①基本的法律知識の体系的・理論的理解とともに、職業法曹としての倫理観を醸成する
- ②実務的課題への実践的取り組み方法を修得させるため、理論を踏まえつつ、実務への架橋を意識した教育
- ③先端応用領域における法的問題解決能力を身に付け、多様かつ地域独自の現代的課題に対応できる能力を磨く



附属図書館は、学内外の学術情報資源を最大限に利用するための機能を備えた大学の情報・資料センターとして、教育・研究活動を支援しています。



本館
松江キャンパス

本館には図書約75万冊、雑誌約1万誌の資料が所蔵されており、このうち図書約25万冊、雑誌4千誌が開架閲覧室等で利用できます。閲覧室の他、少人数での共同学習に適したグループ閲覧室、情報検索や講習会用に41台のパソコンを設置した情報メディアルーム、ビデオやDVDが視聴できるAV

ルームがあり、資料別には郷土資料室、遺跡資料室、八雲文庫室、貴重資料室及び学術雑誌フロアがあります。学生用図書の整備に力をいれ、学習に必要な新刊書など充実を図っています。また、学術情報の世界的な電子化の流れの中で、約7千タイトルの電子ジャーナルや各種データベース、Webコンテンツ等を提供しています。軽い雑誌を読みながらくつろげるブラウジングコーナーがあり、様々な用途に応じた利用ができます。情報メディアルームの他に情報コンテンツを備えたインターネットフロアやパーソナルキャレル、無線LANの設備があり、ノートパソコンを接続することにより、図書館資料（紙媒体）とインターネット資源（電子情報）を併用しながらレポート作成や学習ができる環境を提供しています。また、島根県立図書館や松江市立図書館との相互利用協定や、県内の高等教育機関の図書館による島根県大学・高等専門学校図書館協議会の設立を契機に、一般市民の方々への生涯学習支援や地域の高等教育機関の学生・教職員へのサービスなど、地域貢献に努めています。

医学図書館
出雲キャンパス

医学図書館は出雲キャンパスにあり、医学系専門図書館として、医学科・看護学科の学生・教職員及び附属病院の医師、看護師、コメディカルスタッフへ、学習・教育・研究支援のサービスを展開しています。ICカードによる開館時間外入館システムで、学内者は24時間利用が可能となり、夜遅くまで勉強する学生や、診療時間後に研究



する教職員を支援しています。館内には図書約12万冊、学術雑誌4千誌のほか、ビデオ、DVDも所蔵しています。また、約7千タイトルの電子ジャーナル、各種文献データベースを提供しています。医学図書館では、情報収集のスキル向上を目指して、学生・教職員向けに、授業に参加しての講習会や、各種の文献検索講習会を数多く開催しています。地域への貢献として、図書館を一般市民の方にも広く公開しています。また、島根県内の医療関係機関等図書館（室）と連携しながら、関係職員の資質向上と地域医療従事者へのサービス向上にも努めています。



開架図書（本館）



閲覧室（本館）



新着展示コーナー（医学図書館）

学内共同教育研究施設

学内には、各学部や研究科等に所属する研究者が共同して教育・研究にあたる施設として、一連の教育研究施設を設置しています。



生涯学習教育研究センター
当センターは、地域の生涯学習の推進と市民の学習機会の拡充のため地域の生涯学習関連機関・団体と連携を図りながら、地域社会の発展に寄与しています。
<http://www.ercll.shimane-u.ac.jp/>



総合情報処理センター
学内のみならず、地域社会のネットワーク網の中核としての将来計画を志向しながら情報発信機能を強化することを目指しています。
<http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/>



汽水域研究センター
「人間社会とそれを取り巻く自然環境の持続的発展を可能にするための汽水域の保全と利用」を基本理念として、環境変動や生物多様性のメカニズムの解明、資源解析や保全再生に取り組んでいます。
<http://www.kisuiiki.shimane-u.ac.jp/>



外国語教育センター
外国語教育の計画立案・運営・実施及びその点検評価を組織的に行うほか、外国語教育を通して、地域・社会貢献および国際貢献に寄与することを目指しています。
<http://cfle.shimane-u.ac.jp/>



産学連携センター
産学官連携の拠点として大学の総合的窓口機能を担い、民間等との共同研究、受託研究及び科学技術相談への対応、知的財産に関する相談及び企業・民間の技術者・医療技術者への教育等の業務を行っています。
●地域産業共同研究部門 ●地域医学共同研究部門
●連携企画推進部門 ●知的財産創活部門
<http://www.crc.shimane-u.ac.jp/>



総合科学研究支援センター
既存の研究分野の枠を超えた共同利用体制の整備を実現し、生命・環境・ニューマテリアルに関する先端的及び学際的な教育・研究を強力に支援するとともに、その成果を社会の発展のために還元しています。
●遺伝子機能解析分野(松江キャンパス) ●RI実験施設(松江キャンパス)
●物質機能解析分野(松江キャンパス) ●実験動物分野(出雲キャンパス)
●生体情報・RI実験分野(出雲キャンパス)
<http://www.shimane-u.ac.jp/>から「共同利用施設」をクリック



ミュージアム
●ミュージアム本館など
永年の教育・研究によって収集・蓄積されてきた標本・資料類などを整理、保管、調査・研究などし、展示公開や情報発信を行っています。なお、松江キャンパス内には、このほか山陰地域資料展示室、古代出雲文化資料調査室などの展示スペースもあります。
<http://museum.shimane-u.ac.jp/>



●サテライト
(島根大学旧奥宿舎)
1924(大正13)年、島根大学の前身・旧制松江高等学校外国人教師のために建てられた洋館で、国登録有形文化財にも登録されています。様々な展示活動やミニ教室、町歩き観光の拠点として活用されています。



国際交流センター
多様な国際交流活動の拠点となり、市民、行政、産業界などの地域社会と協力し、海外の大学等関係機関と学生・教職員交流や教育研究の連携を戦略的に推進します。
<http://kokusai.shimane-u.ac.jp/>



島根大学・寧夏大学国際共同研究所
研究所を拠点に、条件不利地域の活性化、開発と環境問題、都市と農村の格差問題などを主要なテーマとして共同研究を行い、研究成果をアジアをはじめとする世界に向けて発信することを目指しています。
<http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/index.html>

学内共同利用施設

工作センター
工作機械を効果的に管理し、教育・研究に必要な機器装置などの製作、修理を行っています。学生も実習などで利用できます。



学生生活関係施設



大会館・食堂
学生・教職員が相互交流できる場として、また、書籍・文具及び日用品の販売、食堂等、学業を継続する上で必要なサービスを提供している施設です。



保健管理センター
島根大学の学生・職員が心身ともに健康な生活が送れるよう、また、より健康が増進されるよう専門的立場から支援するサービス部門です。(松江・出雲両キャンパスに設置)



学生寮
現在、建替え計画があり、入寮の募集を中止することがあります。
男子寮(雄翔寮)
TEL.0852-25-0438 定員/200名
女子寮(紫雲寮)
TEL.0852-25-0437 定員/94名
●住所/松江市西川津町字深町3371の1



男女共同参画推進室
誰もが学びやすく・働きやすい学内環境を作ることを目指して、男女共同参画関連の講演会、女性支援力コンサルティング、ハラスメント相談、保育サポーター養成講座、女子学生交流会、派遣型病後児保育、研究支援員配置制度など、男女共同参画や女性研究者支援にかかる様々な事業を行っています。
<http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/gender/>



学生センター（松江キャンパス）
学内中央部に位置し、学生の修学上の支援・助言等を行っています。また、同センターには、入試センターも設置されています。



教育開発センター
島根大学における学生の学びの質を保障・向上するために、教育システムの構築やFD、それらを支える各種調査、特色ある授業の創出や全学教育プログラムの企画・実施まで様々な学習環境改善活動に携わっています。
<http://cerd.shimane-u.ac.jp/>

入試センター
島根大学における入学者選抜方法等の改善を図るため、入学試験の企画、広報、実施、評価、改善等を行っています。
<http://nyucen.shimane-u.ac.jp/>



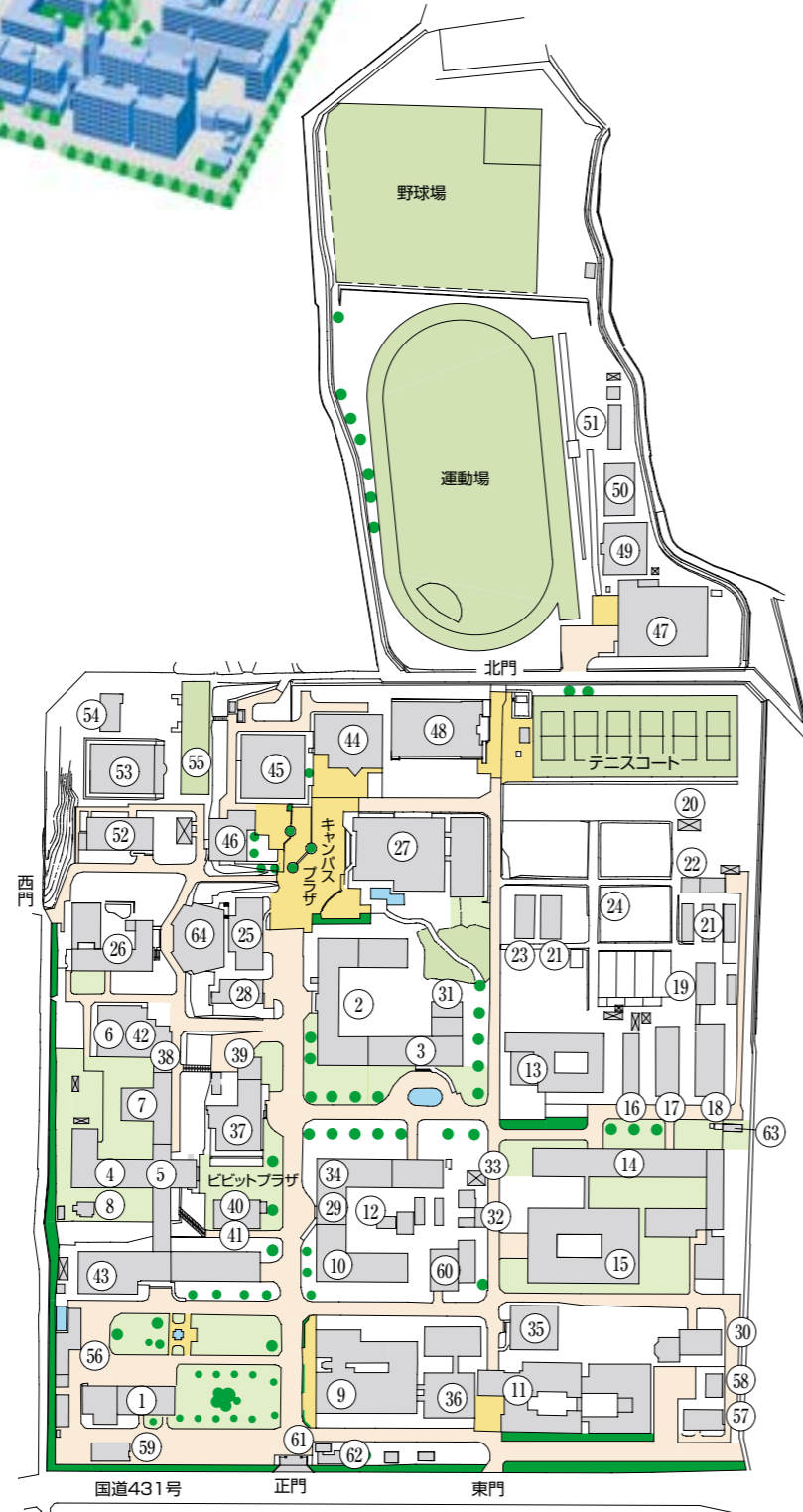
キャリアセンター（学生支援センター内）
学生の職業・進路選択及び就職活動をより円滑に推進するため、全学的立場から支援する組織として就職情報の提供、就職相談、キャリア教育の企画・実施、就職情報の整理・活用を担っています。
<http://career.shimane-u.ac.jp/>

松江キャンパス

〒690-8504 松江市西川津町1060
TEL.0852-32-6100

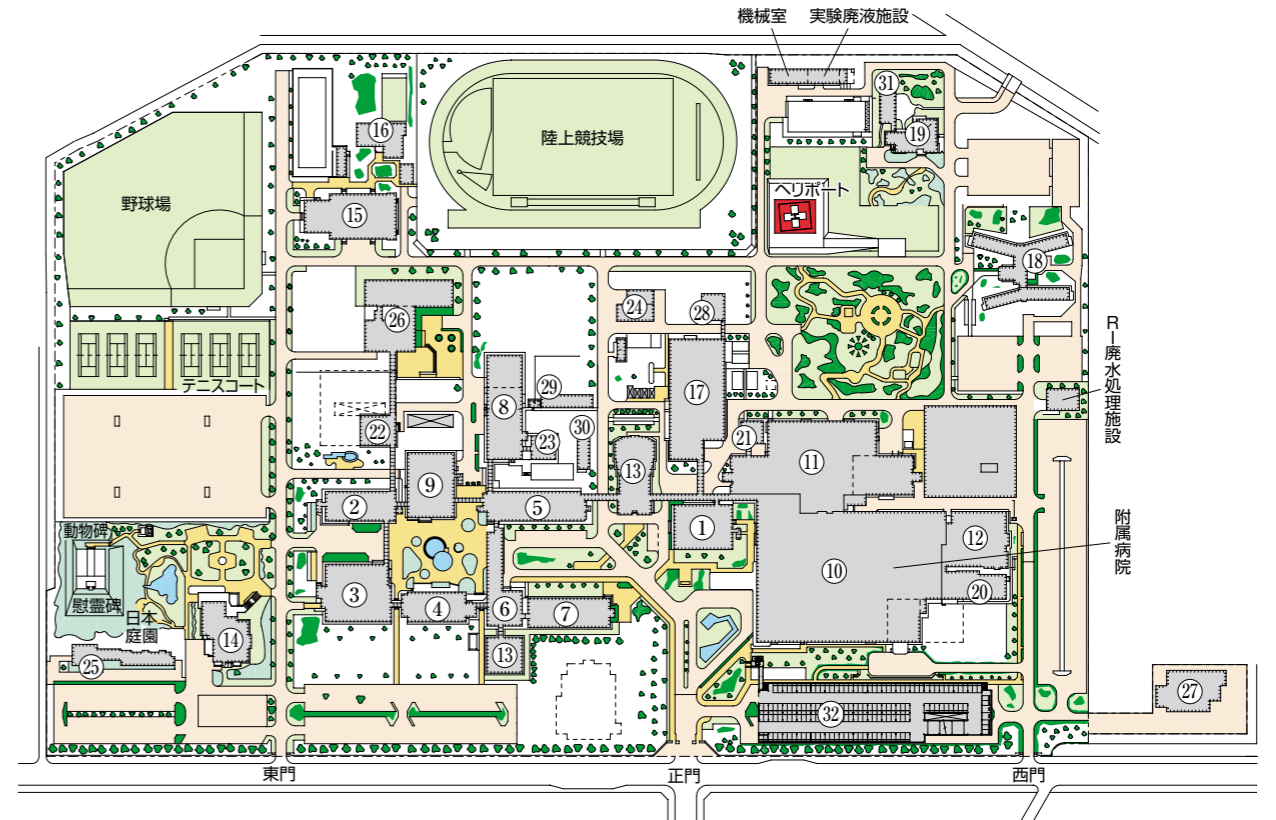


- 1 本部棟
- 2 法文学部棟
- 3 山陰研究センター
- 4 教育学部棟
- 5 教育学部附属教育支援センター
- 6 教育学部附属教師教育センター
- 7 教育学部附属FD戦略センター
- 8 光物性実験室
- 9 総合理工学部棟1号館
- 10 総合理工学部棟2号館
- 11 総合理工学部棟3号館
- 12 動物飼育室
- 13 生物資源科学部棟1号館
- 14 生物資源科学部棟2号館
- 15 生物資源科学部棟3号館
- 16 水利実験室
- 17 農業機械実験室
- 18 林産加工場
- 19 実験動物飼育施設
- 20 製材加工室
- 21 器具庫
- 22 温室
- 23 動物実験飼育室
- 24 ガラス棟
- 25 園場
- 26 教養講義室棟1号館
- 27 教養講義室棟2号館
- 28 附属図書館
- 29 保健管理センター
- 30 生涯学習教育研究センター
- 31 総合情報処理センター
- 32 汽水域研究センター
- 33 ミュージアム
- 34 古代出雲研究施設
- 35 男女共同参画推進室
- 36 遺伝子実験施設
- 37 機器分析センター
- 38 学生センター
- 39 教育開発センター
- 40 入試センター
- 41 学生支援センター
- 42 キャリアセンター
- 43 国際交流センター
- 44 工作センター
- 45 大学会館(松江)
- 46 第1食堂
- 47 第2食堂
- 48 第1体育館
- 49 第2体育館
- 50 トレーニングセンター
- 51 武道館
- 52 体育器具庫
- 53 課外活動共用施設
- 54 プール棟
- 55 弓道場
- 56 アーチアリーナ
- 57 車庫
- 58 環境安全施設
- 59 焼却処理施設
- 60 特高受変電棟
- 61 ボイラー室
- 62 守衛室
- 63 中央監視室
- 64 薬品庫
- 65 大学ホール



出雲キャンパス (医学部・医学部附属病院)

〒693-8501 出雲市塩冶町89-1
TEL.0853-23-2111



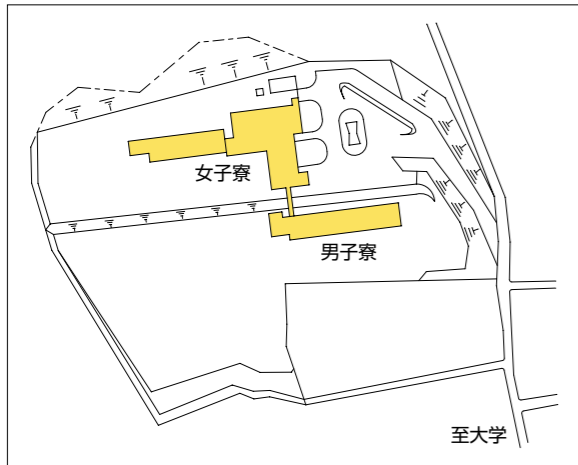
- | | |
|------------------------|------------------|
| 1 本部棟 (医学部) | 17 中央機械室 |
| 2 講義棟 | 18 看護師宿舎 |
| 3 実習棟 | 19 医学部会館 |
| 4 基礎研究棟 | 20 MRI-CT装置棟 |
| 5 臨床研究棟 | 21 病歴室 |
| 6 共同研究棟 | 22 第三研究棟 |
| 7 第二研究棟 | 23 RI研究棟 |
| 8 総合科学研究支援センター (出雲地区) | 24 塵芥焼却炉室 |
| 9 RI-動物実験施設 | 25 国際交流センター (出雲) |
| 10 医学図書館 | 26 看護学科棟 |
| 11 外来・中央診療棟 | 27 産学連携センター (出雲) |
| 12 病棟 | (地域医学共同研究部門) |
| 13 RI高エネルギー棟 | 28 特高受変電棟 |
| 14 臨床講義棟 | 29 第三共同研究棟 |
| 15 大学会館 (出雲) | 30 第四共同研究棟 |
| 16 保健管理センター (出雲保健センター) | 31 うさぎ保育所 |
| | 32 立体駐車場 |



その他の地区

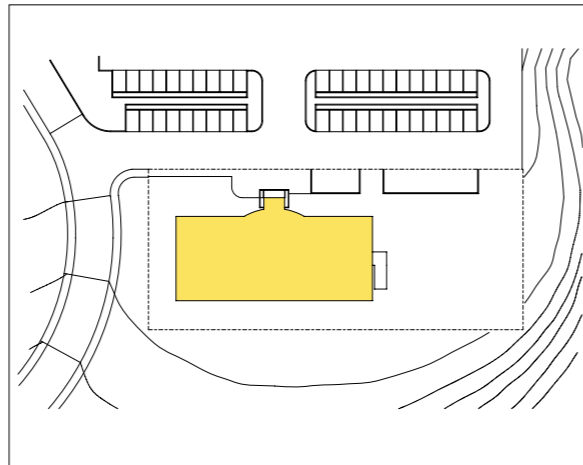
深町地区(学寮)

〒690-0823 松江市西川津町字深町3371-1
TEL.0852-21-3118



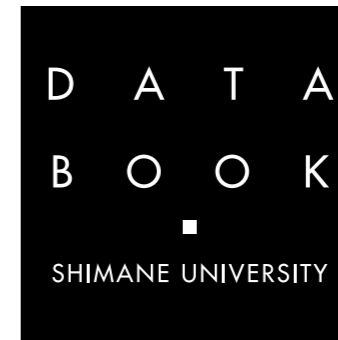
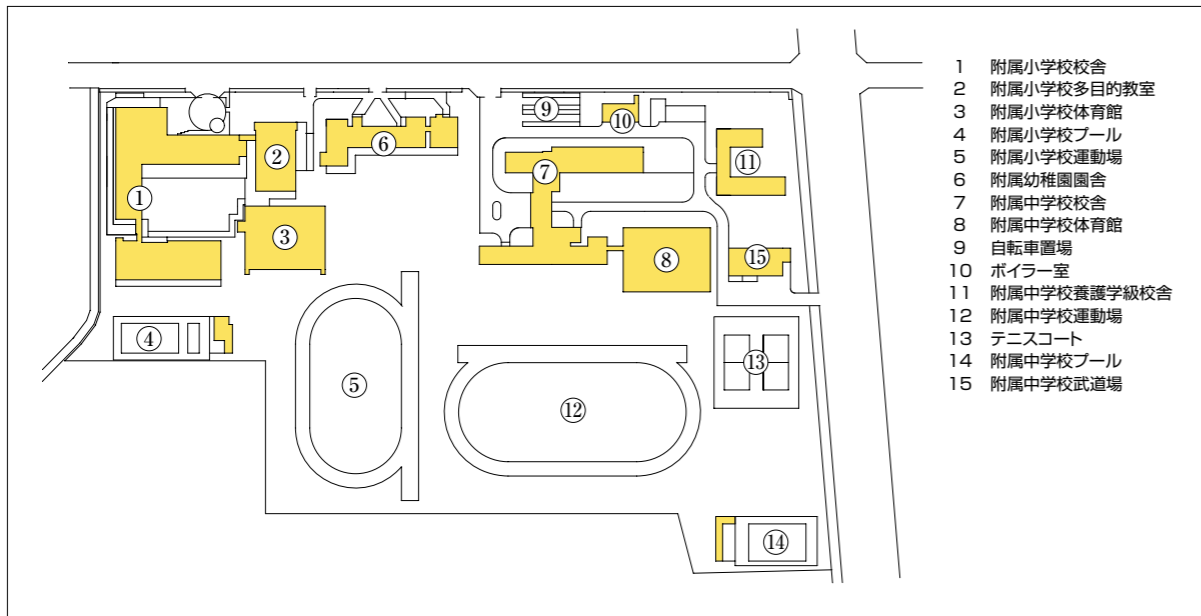
北陵地区(産学連携センター・松江キャンパス)

●地域産業共同研究部門・知的財産創活部門・連携企画推進部門
〒690-0816 松江市北陵町2 TEL.0852-60-2290



大輪地区(附属学校)

教育学部附属小学校 / 〒690-0882 松江市大輪町416-4 TEL.0852-29-1200
教育学部附属中学校 / 〒690-0824 松江市菅田町167-1 TEL.0852-29-1300
教育学部附属幼稚園 / 〒690-0882 松江市大輪町416-4 TEL.0852-29-1120



島根大学データブック
2010

部局名	所在地	電話番号
生物資源科学部附属生物資源教育研究センター		
本部	〒690-1102 松江市上本庄町2059	0852-34-0311
森林科学部門 三瓶演習林	〒694-0003 大田市三瓶町多根941-1	0854-86-0011
農業生産科学部門 本庄総合農場	〒690-1102 松江市上本庄町2059	0852-34-0311
// 神西砂丘農場	〒699-0822 出雲市神西沖町字蛇島2473-1	0853-43-2081
海洋生物科学部門 隠岐臨海実験所	〒685-0024 隠岐郡隠岐の島町加茂194	08512-2-1814
汽水域研究センター 中海分室	〒690-1401 松江市八束町江島字南土手附694	0852-76-9007
国際交流会館	〒690-0824 松江市菅田町字ドンド320	0852-25-9530

D A T A B O O K

目次・学年暦 1
 沿革 2
 沿革図 3
 運営組織図 5
 役職員 7
 経営協議会委員等 8
 教職員数 9
 学部・大学院 10
 附属図書館 11
 附属病院 12
 学生数 13
 附属学校児童・生徒・幼児数 14
 入試実施状況 15
 卒業生数・修了者数 19
 博士の学位授与状況 20
 卒業・修了後の状況 21
 公開講座・公開授業 23
 科学研究費補助金等の受入状況 24
 収入・支出決算額 25
 外国人留学生の受入状況 26
 外国への留学状況 27
 外国人研究者の受入状況 27
 奨学生数 27
 定期刊行文献 28
 土地・建物 29
 連絡先一覧 30
 アクセス 31
 島根大学周辺案内 32

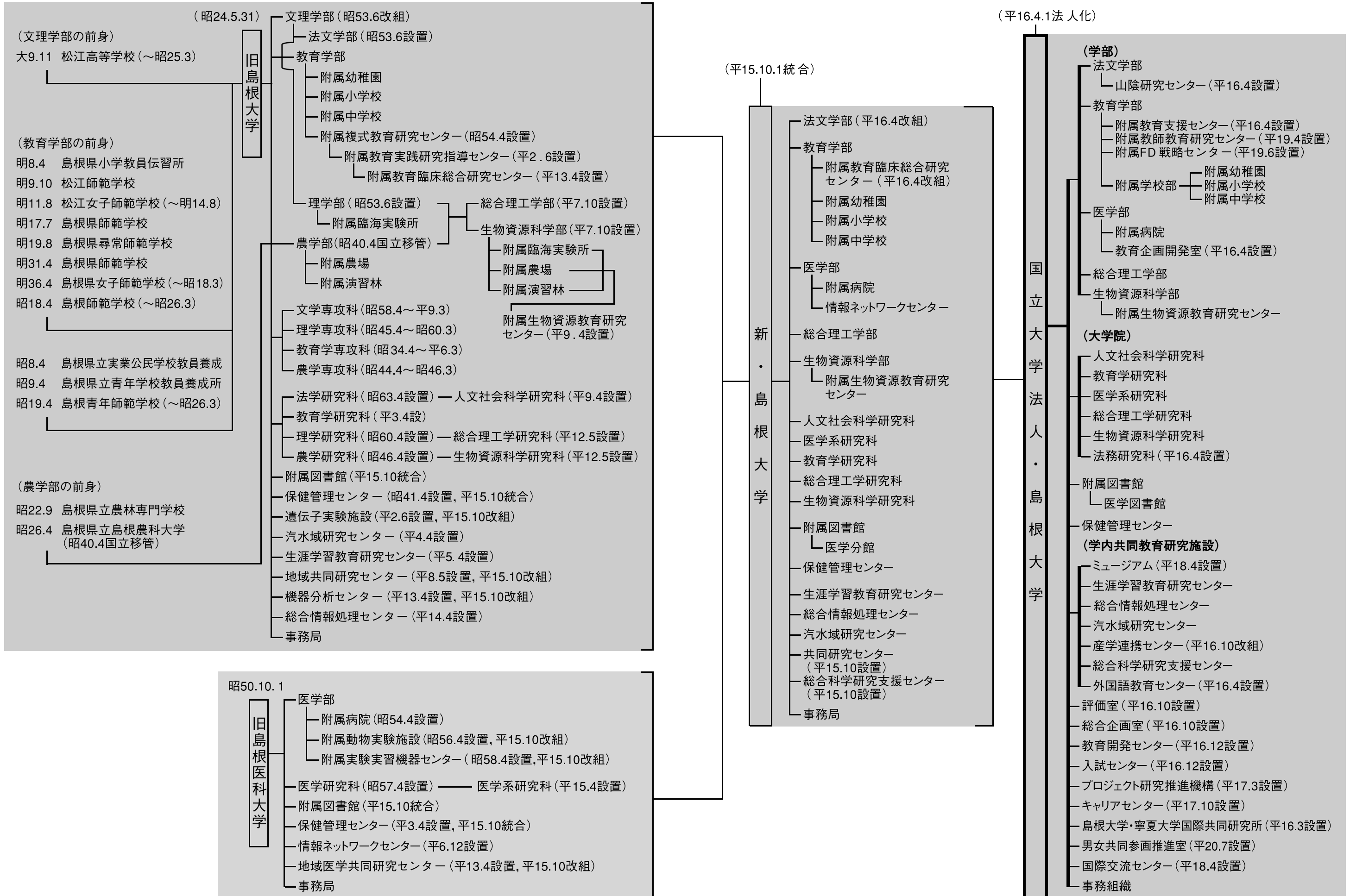
学 年 暦

4月1日	学年始 前期始
4月6日	入学式
8月9日～9月30日	夏季休業
9月30日	前期終
10月1日	後期始 開学記念日
10月8日～11日	大学祭(松江)
10月16日～17日	大学祭(出雲)
12月23日～1月5日	冬季休業
3月22日	学位授与式(出雲)
3月25日	学位授与式(松江)

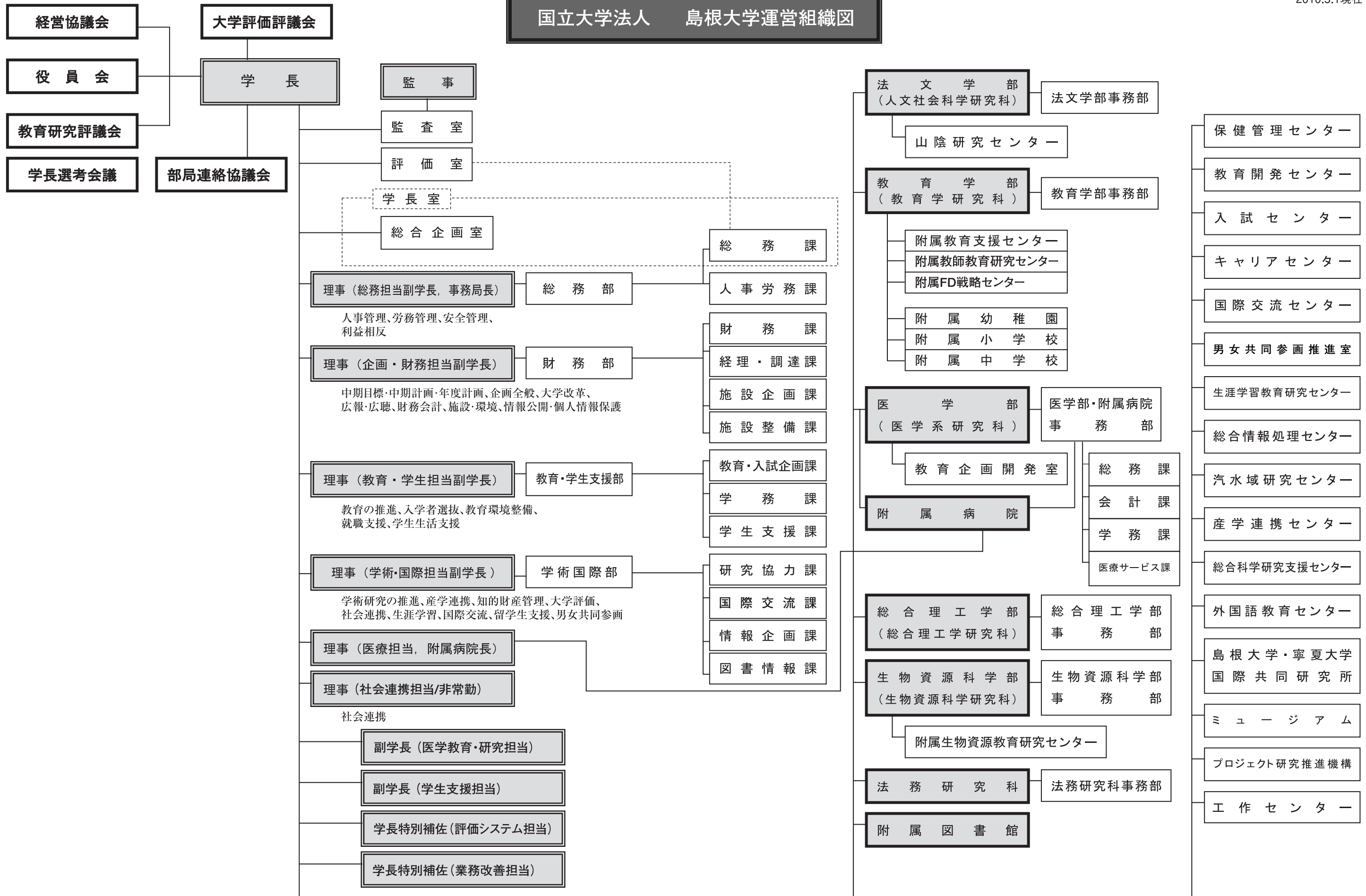
年 月	旧島根大学	旧島根医科大学
昭和24年 5月	旧制松江高等学校，島根師範学校，島根青年師範学校を母体として，文理学部，教育学部からなる新制大学として発足	
昭和40年 4月	島根県立島根農科大学を国立移管し，農学部を設置	
昭和41年 4月	保健管理センター設置	
昭和42年 6月	農学部附属農場・農学部附属演習林設置	
昭和46年 4月	大学院農学研究科設置（平成12年生物資源科学研究科に拡充改組）	
昭和50年10月		島根医科大学設置
昭和53年 4月		RI 実験施設設置
昭和53年 6月	文理学部を改組し，法文学部と理学部設置	
昭和54年 4月	教育学部附属複式教育研究センター設置	医学部附属病院設置
昭和56年 4月		医学部附属動物実験施設設置
昭和57年 4月		大学院医学研究科博士課程設置
昭和58年 4月		医学部附属実験実習機器センター設置
昭和60年 4月	大学院理学研究科設置（平成12年総合理工学研究科に拡充改組）	
昭和63年 4月	大学院法学研究科設置（平成9年人文社会科学研究科に拡充改組）	
平成元年 4月	島根大学，鳥取大学，山口大学の協力のもとに大学院連合農学研究科博士課程を鳥取大学に設置	
平成 2年 6月	遺伝子実験施設設置 教育学部附属教育実践研究指導センター設置	
平成 3年 4月	大学院教育学研究科設置	保健管理センター設置
平成 4年 4月	汽水域研究センター設置	
平成 5年 4月	生涯学習教育研究センター設置	
平成 6年12月		情報ネットワークセンター設置
平成 7年 2月		特定機能病院として承認
平成 7年10月	理学部と農学部を融合・改組し，総合理工学部と生物資源科学部設置	
平成 8年 5月	地域共同研究センター設置	
平成 9年 4月	大学院人文社会科学研究科設置 附属生物資源教育研究センター設置	
平成11年 4月		医学部看護学科設置
平成12年 4月	大学院総合理工学研究科設置 大学院生物資源科学研究科設置	
平成13年 4月	教育学部附属教育臨床総合研究センター設置 機器分析センター設置	地域医学共同研究センター設置
平成14年 4月	大学院総合理工学研究科を博士課程に改組 総合情報処理センター設置	
平成15年 4月		大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称し，看護学専攻（修士課程）設置

年 月	島 根 大 学
平成15年10月	旧島根大学と旧島根医科大学を統合し，新島根大学を設置 共同研究センター・総合科学研究支援センター設置
平成16年 3月	島根大学・寧夏大学国際共同研究所設置
平成16年 4月	国立大学法人法の施行により，国立大学法人島根大学となる 大学院法務研究科設置，大学院医学系研究科に医科学専攻(修士課程)を設置 教育学部附属教育支援センター設置，医学部教育企画開発室設置 外国語教育センター設置，法文学部山陰研究センター設置
平成16年10月	共同研究センターを改組し，産学連携センターを設置，評価室設置，総合企画室設置
平成16年12月	教育開発センター設置，入試センター設置
平成17年 3月	プロジェクト研究推進機構設置
平成17年10月	キャリアセンター設置
平成18年 4月	ミュージアム設置，国際交流センター設置
平成19年 4月	教育学部附属教師教育研究センター設置
平成19年 6月	教育学部附属FD戦略センター設置
平成20年 7月	男女共同参画推進室設置

沿革図



国立大学法人 島根大学運営組織図



■学 長

学 長 山 本 廣 基

■理 事

理事（企画・財務担当副学長） 宅 和 暁 男
 理事（教育・学生担当副学長） 三 宅 孝 之
 理事（学術・国際担当副学長） 柴 田 均
 理事（医療担当） 小 林 祥 泰
 理事（総務担当副学長） 松 本 次 好
 理事（非常勤）（社会連携担当） 江 口 博 晴

■副学長

副学長（学生支援担当） 足 立 悦 男
 副学長（医学教育・研究担当） 大 谷 浩

■学長特別補佐

学長特別補佐（評価システム担当） 野 田 哲 夫
 学長特別補佐（業務改善担当） 細 木 勝 美

■監 事

監事 山 崎 征 爾
 監事（非常勤） 宮 脇 和 秀

■事務局長

事務局長 松 本 次 好

■副学長の下に置く部

総務担当副学長

総務部

総務部長 渡 部 博 靖
 総務課長 村 上 賀 章
 人事労務課長 田 中 巖

企画・財務担当副学長

財務部

財務部長 木 村 哲 規
 財務課長 今 野 力 一
 経理・調達課長 西 田 俊 一
 施設企画課長 上 野 浩 一
 施設整備課長 浅 沼 智

教育・学生担当副学長

教育・学生支援部

教育・学生支援部長 石 橋 公 夫
 教育・入試企画課長 為 石 勝 美
 学務課長 門 城 祐 司
 学生支援課長 山 崎 幸 司

学術・国際担当副学長

学術国際部

学術国際部長 花 房 茂 俊
 研究協力課長 宍 戸 好 隆
 国際交流課長 小 村 陽 悦
 情報企画課長 藤 原 恵 吉
 図書情報課長 板 谷 茂

■監査室

室長 渡 部 博 靖

■学部・大学院

法文学部・人文社会科学研究科

学部長・研究科長 武 田 信 明
 副学部長 村 瀬 俊 樹
 副学部長 居 石 正 和
 副学部長 倉 田 隆 之
 事務長 恒 松 久 之

教育学部・教育学研究科

学部長・研究科長 伊 藤 豊 彦
 副学部長 秋 重 幸 邦
 副学部長 加 藤 寿 朗
 副学部長 高 橋 哲 也
 副学部長 肥 後 功 一
 附属教育支援センター長 境 英 俊
 附属教師教育研究センター長 高 岡 信 也
 附属FD戦略センター長 肥 後 功 一
 附属学校部長 小 川 巖 生
 附属幼稚園長 佐 々 有 生
 附属小学校長 佐 々 有 生
 附属中学校長 佐 々 有 生
 事務長 三 原 隆

医学部・医学系研究科

学部長・研究科長 紫 藤 治 憲
 副学部長 塩 飽 邦 祐
 副学部長 内 尾 祐 司
 附属病院長 小 林 祥 泰
 副病院長 井 川 幹 夫
 副病院長 山 口 清 恵
 副病院長 秦 美 子
 事務部長 日 出 充 一
 総務課長 安 友 政 男
 会計課長 三 澤 和 男
 学務課長 菅 野 敬 也
 医療サービス課長 田 村 和 彦

総合理工学部・総合理工学研究科

学部長・研究科長 竹 内 潤 信
 副学部長 吉 田 和 信
 副学部長 久 保 恭 男
 事務長 坂 本 節 郎

生物資源科学部・生物資源科学研究科

学部長・研究科長 谷 口 憲 治
 副学部長 澤 嘉 弘
 副学部長 尾 崎 浩 一
 附属生物資源教育研究センター長 小 葉 田 亨 良
 事務長 伊 藤 一 良

法務研究科

研究科長 藤 田 達 朗
 事務長 恒 松 久 之

■附属施設・学内共同教育研究施設等

附属図書館

附属図書館長 平 川 正 人
 医学図書館長 富 岡 治 明

保健管理センター

所長 蘆 田 耕 一
 副所長 江 副 智 子

総合企画室

室 長 宅 和 暁 男

評価室

室 長 柴 田 均

教育開発センター

センター長 三 宅 孝 之
 副センター長 山 田 剛 史

入試センター

センター長 三 宅 孝 之
 副センター長 田 中 均

キャリアセンター

センター長 足 立 悦 男

国際交流センター

センター長 柴 田 均

生涯学習教育研究センター

センター長 山 下 政 俊

総合情報処理センター

センター長 野 田 哲 夫
 副センター長 鈴 木 貢

汽水域研究センター

センター長 野 村 律 夫
 副センター長 國 井 秀 伸

産学連携センター

センター長 大 庭 卓 也
 副センター長 並 河 徹

総合科学研究支援センター

センター長 川 向 誠
 副センター長 富 岡 治 明

外国語教育センター

センター長 西 脇 宏
 副センター長 廣 瀬 浩 三

ミュージアム

館長 林 正 久
 副館長 會 下 和 宏

工作センター

センター長 廣 光 一 郎

プロジェクト研究推進機構

機構長 柴 田 均

男女共同参画推進室

室長 澤 ア ツ 子

■経営協議会委員

学長 山 本 廣 基
 理事（企画・財務担当副学長） 宅 和 暁 男
 理事（教育・学生担当副学長） 三 宅 孝 之
 理事（学術・国際担当副学長） 柴 田 均
 理事（医療担当） 小 林 祥 泰
 理事（総務担当副学長） 松 本 次 好
 理事（非常勤）（社会連携担当） 江 口 博 晴
 山陰中央テレビジョン放送（株）代表取締役 有 澤 寛
 環太平洋大学長 梶 田 叡 一
 一畑電気鉄道（株）代表取締役 大 谷 厚 郎
 島根県病院事業管理者 中 川 正 久
 島根県弁護士会 弁護士 中 村 寿 敦 夫
 キャスター・エッセイスト 福 島 敦 子
 松江市長 松 浦 正 敬
 （財）日本宇宙フォーラム 理事長 間 宮 馨

■教育研究評議会評議員

学長 山 本 廣 基
 理事（企画・財務担当副学長） 宅 和 暁 男
 理事（教育・学生担当副学長） 三 宅 孝 之
 理事（学術・国際担当副学長） 柴 田 均
 理事（医療担当） 小 林 祥 泰
 理事（総務担当副学長） 松 本 次 好
 副学長（学生支援担当） 足 立 悦 男
 副学長（医学教育・研究担当） 大 谷 浩 明
 法文学部長 武 田 信 彦
 教育学部長 伊 藤 豊 彦
 医学部長 紫 藤 治 憲
 総合理工学部長 竹 内 潤 信
 生物資源科学部長 谷 口 憲 治
 法務研究科長 藤 田 達 朗
 附属図書館長 平 川 正 人
 汽水域研究センター長 野 村 律 夫
 教授 法文学部 居 石 正 和
 教授 法文学部 村 瀬 俊 樹
 教授 教育学部 高 岡 信 也
 教授 教育学部 肥 後 功 一
 教授 医学部 高 田 晃 平
 教授 医学部 高 斉 藤 洋 司
 教授 総合理工学部 横 田 修 一
 教授 総合理工学部 服 部 泰 直
 教授 生物資源科学部 荒 瀬 榮 博
 教授 生物資源科学部 野 中 資 博

教職員数

2010.5.1現在																														
区 分	役 員				教 育 職 員									一 般 職 員								医 療 職 員			特 別 職 員	合 計				
	学 長	理 事	監 事	小 計	教 授	准 教 授	講 師	助 教	校 長	副 校 長	副 校 長	主 幹 教 諭	指 導 教 諭	教 諭	養 護 教 諭	小 計	事 務 職 員	技 術 職 員	図 書 職 員	技 能 職 員	労 務 職 員	教 務 職 員	小 計	医 療 技 術 職 員			看 護 職 員	小 計		
学 長	1			1																									1	
理 事		6		6																									6	
監 事			2	2																									2	
事務局長																														
監査室																	2								2				2	
評価事務室																														
副 学 長 の 下 に 置 く 部	総務部	総務部長															1								1				1	
		総務課																17			2					19				19
	人事労務課																25								25				25	
	財務部	財務部長																1								1				1
		財務課																9								9				9
		経理・調達課																17								17				17
		施設企画課																7	9						2	18				18
	施設整備課																1	14							15				15	
	教育・学生支援部	教育・学生支援部長																1								1				1
		教育・入試企画課																14								14				14
学務課																	21								21				21	
学生支援課																	13								13	1	1		14	
学術国際部	学術国際部長																1								1				1	
	研究協力課																9	2						1	12				12	
	国際交流課																4		1						5				5	
	情報企画課																6	2						1	9				9	
図書情報課																4		14						18				18		
法文学部				32	33	2										67	6							6					73	
教育学部				46	28	8	2									84	9	1						10					94	
附属中学校											1	2	1	23	1	28	1							1					29	
附属小学校											1	2	2	21	1	27	1							1					28	
附属幼稚園											1		1	4	1	7													7	
医学部				52	29	8	81									170	105	41		5			7	158					328	
附属病院				2	10	29	61									102	1	1		12				14	110	429	539	655		
総合理工学部				53	40	11	12									116	8	3					3	14					130	
生物資源科学部				34	39	2	13									88	10	14						24					112	
法務研究科				13	2	1										16	2							2					18	
保健管理センター				2	1											3									1	2	3		6	
総合企画室				1												1													1	
評価室							1									1													1	
教育開発センター					2	1	1									4													4	
入試センター				1												1													1	
キャリアセンター				2												2													2	
国際交流センター				1												1													1	
男女共同参画推進室				1		1										2													2	
生涯学習教育研究センター				1	1											2													2	
総合情報処理センター					1											1													1	
汽水域研究センター				2	3											5													5	
産学連携センター				3		1										4													4	
総合科学研究支援センター				2	2		4									8													8	
外国語教育センター				4	8											12													12	
宁夏国際共同研究所																														
ミュージアム						1										1													1	
プロジェクト研究推進機構						1	1									2													2	
合 計	1	6	2	9	252	201	66	174		3	4	4	48	3	755	296	87	15	19	2	12	431	112	431	543			1,738		

(注)1.理事及び監事には、非常勤の理事及び監事各1名を含む。2.病院診療職員は含まない。3.外国人研究員は含まない。

学部・大学院

■学部

学 部	学 科 ・ 課 程	講 座
法文学部	法経学科	法経
	社会文化学科	社会文化
	言語文化学科	言語文化
教育学部	学校教育課程	初等教育開発、心理・発達臨床、言語文化教育、共生社会教育、数理基礎教育、自然環境教育、人間生活環境教育、健康・スポーツ教育、芸術表現教育
医学部	医学科	基礎医学系 解剖学、生理学、生化学、生命科学 臨床基礎医学系 薬理学、病理学、微生物・免疫学 社会医学系 法医学、環境保健医学、医療情報学、医療社会文化学 臨床医学系 内科学、皮膚科学、小児科学、外科学、整形外科、脳神経外科学、泌尿器科学、精神医学、産科婦人科学、耳鼻咽喉科学、眼科学、放射線医学、麻酔科学、歯科口腔外科学、臨床検査医学、救急医学、地域医療教育学、地域医療支援学
		看護学科
総合理工学部	物質科学科	物質構造、物質設計、物質機能、量子物理、物質化学
	地球資源環境学科	地球物質システム学、環境地質学、自然災害工学
	数理・情報システム学科	数理構造、数理解析、応用情報学、計算機科学
	電子制御システム工学科	制御システム工学、計測システム工学、電気電子システム工学、電子デバイス工学
	材料プロセス工学科	材料工学、機械加工システム学
生物資源科学部	生物科学科	細胞生物学、生物機能学
	生態環境科学科	環境生物学、生態環境工学、森林環境学
	生命工学科	応用生命工学、生命情報工学
	農業生産学科	食糧生産学、植物資源開発学、生産技術管理学
	地域開発科学科	農林・資源経済学、生物環境情報工学、地域環境工学

■大学院

研究科	専 攻	講 座
人文社会科学研究科 修士課程	法経専攻	法政コース、地域経済コース
	言語・社会文化専攻	言語文化コース、社会文化コース
教育学研究科 修士課程	教育実践開発専攻	学習開発、臨床心理、発達臨床
	教育内容開発専攻	言語系教育、社会系教育、数理系教育、自然系教育、生活系教育、健康系教育、芸術系教育
医学系研究科 博士課程	医科学専攻	研究者育成コース、高度臨床医育成コース、腫瘍専門医育成コース
医学系研究科 修士課程	医科学専攻	総合医科学コース、がん専門薬剤師養成コース、地域医療支援コーディネータ養成コース
	看護学専攻	看護援助技術学コース、看護管理技術学コース、母子看護学コース、成人看護学コース、地域在宅看護学コース、高齢者看護学コース
総合理工学研究科 博士後期課程	マテリアル創成工学専攻	マテリアル開発工学、マテリアル循環プロセス学
総合理工学研究科 博士前期課程	電子機能システム工学専攻	電子情報システム工学、電子機能集積工学
	物質科学専攻	物質構造、物質設計、物質機能、量子物理、物質化学
	地球資源環境学専攻	地球物質システム学、環境地質学、自然災害工学
	数理・情報システム学専攻 電子制御システム工学専攻	数理構造、数理解析、応用情報学、計算機科学 制御システム工学、計測システム工学、電気電子システム工学、電子デバイス工学
生物資源科学研究科 修士課程	材料プロセス工学専攻	材料工学、機械加工システム学
	生物生命科学専攻 農林生産科学専攻 環境資源科学専攻	
法務研究科 専門職学位課程	法曹養成専攻	

附属図書館

■蔵書数 2010.5.1現在

区分	図 書(冊)			雑 誌(種)		
	和書	洋書	計	和書	洋書	計
本 館	603,550	151,542	755,092	9,158	2,961	12,119
医学図書館	64,190	55,259	119,449	2,227	1,711	3,938

■利用状況 2009年度

区分	入館者数	貸出冊数	図書の貸借		文献複写	
			貸出	借受	受付	依頼
本 館	331,304	49,215	263	535	1,469	3,666
医学図書館	191,554	15,266	9	29	2,105	3,318

■閲覧座席

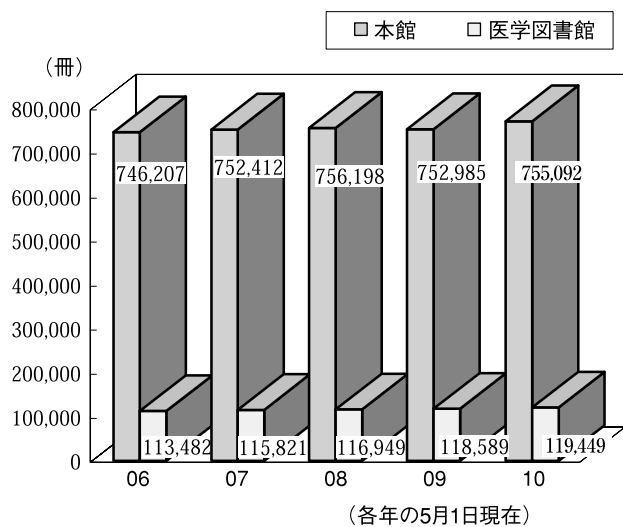
区分	座席数	備 考
本 館	600	開架閲覧室409席,学習室16席,グループ閲覧室16席,新聞閲覧コーナー20席,ブラウジングコーナー24席,職員閲覧室4席,郷土資料室4席,遺跡資料室8席,八雲文庫室10席,AVルーム14席,情報メディアルーム41席,パソコンコーナー18席,第2貴重資料室2席,書庫内14席
医学図書館	291	開架閲覧室192席,ビデオ室8席,自由閲覧室22席,ブラウジングコーナー5席,視聴覚室42席,セミナー室22席

■開館時間等

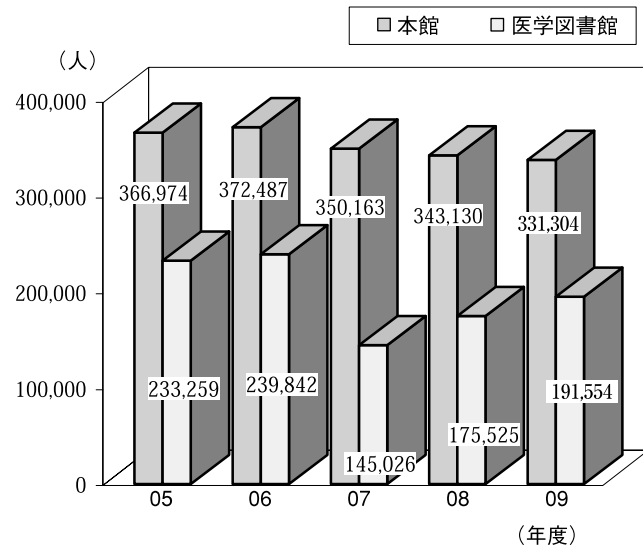
区分	開 館 時 間		休館日
	月曜～金曜	土曜・日曜・定期試験期間中の休日	
本 館	8:30～21:30 (休業期は9:00～19:00まで) または (9:00～17:10まで)	10:00～17:30 (休業期は休館)	休業期の土曜・日曜・休日 年末・年始(12月29日～1月4日) 夏季一斉休業(8月13日～15日) 定例図書整理日(4月を除く偶数月の第4水曜日) 特別整理期間(3月下旬)
医学図書館	9:00～20:00	10:00～16:00	年末・年始(12月28日～1月4日) 夏季一斉休業(8月13日～15日) 医学図書館長が必要と認めた日

■蔵書数・利用状況の推移

●蔵書数(図書)



●利用状況(入館者数)



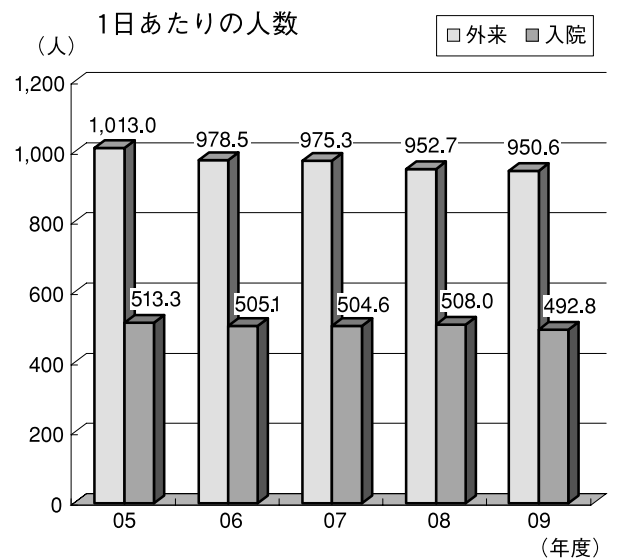
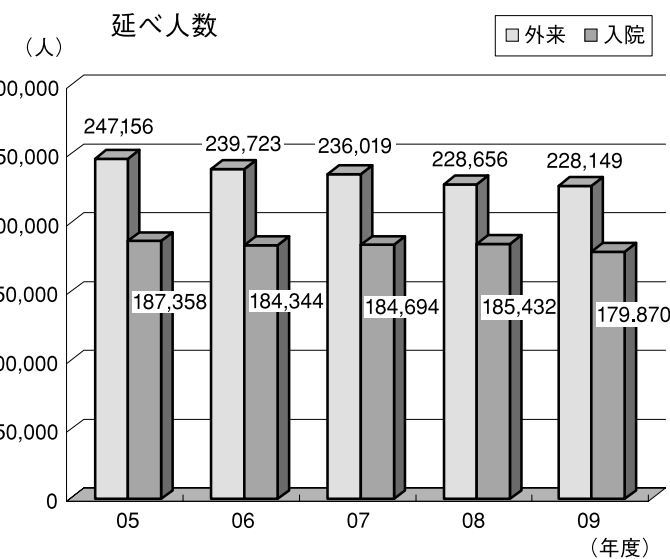
附属病院

■附属病院患者数 (2009.4.1～2010.3.31)

診療科名	病床数	外来患者数		入院患者数	
		延 数	1日平均数	延 数	1日平均数
		人	人	人	人
内分泌代謝内科	20	10,997	45.8	5,227	14.3
血液内科	24	4,549	19.0	10,066	27.6
消化器内科	44	9,840	41.0	9,706	26.6
肝臓内科		7,203	30.0	5,248	14.4
神経内科	33	8,700	36.3	7,963	21.8
膠原病内科		6,772	28.2	2,796	7.7
呼吸器・化学療法内科	8	6,490	27.0	5,356	14.7
腎臓内科	4	3,098	12.9	2,138	5.9
循環器内科	34	8,019	33.4	9,434	25.8
皮膚科	16	13,681	57.0	3,838	10.5
小児科	31	11,274	47.0	8,636	23.7
消化器外科	70	9,530	39.7	18,055	49.5
肝・胆・膵外科		1,429	6.0	2,508	6.9
小児外科		916	3.8	751	2.1
乳腺・内分泌外科		3,050	12.7	1,576	4.3
心臓血管外科	15	1,641	6.8	6,188	17.0
呼吸器外科	15	1,198	5.0	3,703	10.1
整形外科	46	15,470	64.5	13,321	36.5
脳神経外科	22	4,539	18.9	6,850	18.8
泌尿器科	22	14,339	59.7	8,170	22.4
精神科神経科	40	15,597	65.0	10,291	28.2
産科	42	5,222	21.8	3,319	9.1
婦人科		8,622	35.9	12,481	34.2
耳鼻咽喉科	30	10,880	45.3	8,452	23.2
眼科	22	16,816	70.1	7,292	20.0
放射線科	7	1,109	4.6	293	0.8
放射線治療科		5,360	22.3	895	2.5
麻酔科	4	6,201	25.8	1,111	3.0
救急部	2	7,763	32.3	222	0.6
腫瘍センター	4	344	1.4	838	2.3
歯科口腔外科	11	6,837	28.5	3,066	8.4
顎顔面インプラントセンター		663	2.8	80	0.2
共通	31				
RI・Ra	3			(147)	(0.4)
インキュベーター	5				
NICU	3			(925)	(2.5)
ICU	6			(1,691)	(5.7)
緊急	2				
合 計	616	228,149	950.6	179,870	492.8

※ ICU, NICU, RI・Raの入院患者数については、再掲で表示しております。

●患者数の推移



学生数

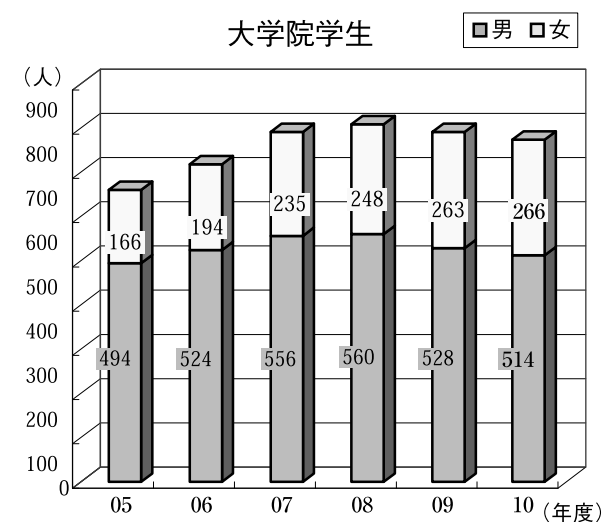
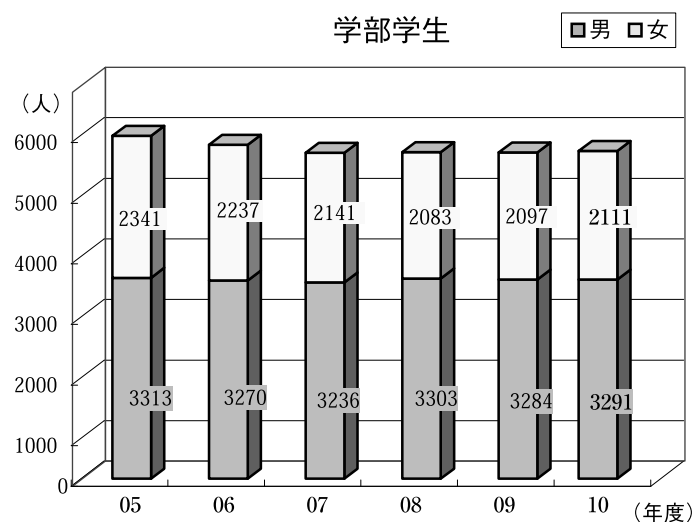
学部

2010.5.1現在

区分	入学定員	収容定員	現員			
			男	女	計	
法文学部	法経学科	90	360	260 (1)	144 (1)	404 (2)
	社会文化学科	70	280	140	173 (1)	313 (1)
	言語文化学科	65	260	60 (4)	246 (4)	306 (8)
	法学科	-	-	3		3
計	225 【10】	920	463 (5)	563 (6)	1026 (11)	
教育学部	学校教育課程	170	680	297	414	711
	学校教育教員養成課程	-	-	1		1
	生活環境福祉課程	-	-	1		1
	計	170	680	299	414	713
医学部	医学科	100 【10】	535	347	251	598
	看護学科	60 【10】	240	22	244	266
	計	155 【20】	835	369	495	864
総合理工学部	物質科学科	130	520	527	83 (1)	610 (1)
	地球資源環境学科	50	200	152	55	207
	数理・情報システム学科	100	400	362 (1)	91	453 (1)
	電子制御システム工学科	80	320	362 (12)	6 (1)	368 (13)
	材料プロセス工学科	40	160	160 (6)	36 (2)	196 (8)
計	400 【20】	1,640	1,563 (19)	271 (4)	1,834 (23)	
生物資源科学部	生物科学科	30	120	81	54 (2)	135 (2)
	生態環境科学科	45	180	116 (1)	94 (3)	210 (4)
	生命工学科	40	160	96	78	174
	農業生産学科	30	120	79	61	140
	地域開発科学科	55	220	194 (6)	66	260 (6)
計	200 【20】	840	566 (7)	353 (5)	919 (12)	
合計	1,150 【70】	4,915	3,260 (31)	2,096 (15)	5,356 (46)	

注 1.入学定員欄の【 】は、第3年次編入学定員で外数
2.現員欄の()は、外国人留学生で外数

学部学生・大学院学生数の推移



大学院

2010.5.1現在

区分	入学定員	収容定員	現員									
			修士課程 博士前期課程			医学博士課程 博士後期課程			専門職学位課程			
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
人文社会科学 研究科	法経専攻	6	12	4 (3)	2 (5)	6 (8)						
	言語・社会文化専攻	6	12	3 (1)	10 (2)	13 (3)						
	計	12	24	7 (4)	12 (7)	19 (11)						
法務研究科	法曹養成専攻	20	80							48	18	66
	計	20	80							48	18	66
教育学研究科	教育実践開発専攻	20	40	10	17 (2)	27 (2)						
	教育内容開発専攻	20	40	18	19 (7)	37 (7)						
	計	40	80	28	36 (9)	64 (9)						
医学系研究科	医科学専攻	30	90				63 (13)	22 (8)	85 (21)			
	医科学専攻	15	30	19 (1)	12	31 (1)						
	看護学専攻	12	24	1	30	31						
	形態系専攻		8				12 (1)	5 (1)	17 (2)			
	機能系専攻		15				12 (1)	4 (1)	16 (2)			
計	57	174	20 (1)	42	62 (1)	91 (15)	35 (11)	126 (26)				
総合理工学 研究科	物質科学専攻	36	72	66	7	73						
	地球資源環境学専攻	14	28	9 (3)	9 (4)	18 (7)						
	数理・情報システム学専攻	28	56	38 (4)	12	50 (4)						
	電子制御システム工学専攻	22	44	65	(1)	65 (1)						
	材料プロセス工学専攻	12	24	15	3 (1)	18 (1)						
	マテリアル創成工学専攻	6	18				12 (8)	2 (8)	14 (16)			
	電子機能システム工学専攻	6	18				6 (3)	1	7 (3)			
計	124	260	193 (7)	31 (6)	224 (13)	18 (11)	3 (8)	21 (19)				
生物資源科学 研究科	生物生命科学専攻	20	40	32 (2)	18 (1)	50 (3)						
	農林生産科学専攻	22	44	15 (5)	14 (1)	29 (6)						
	環境資源科学専攻	18	36	14 (2)	10 (4)	24 (6)						
	地域開発科学専攻			1		1						
	計	60	120	62 (9)	42 (6)	104 (15)						
合計	313	738	310 (21)	163 (28)	473 (49)	109 (26)	38 (19)	147 (45)	48	18	66	

注) 現員欄の()は、外国人留学生で外数

附属学校児童・生徒・幼児数

2010.5.1現在

附属幼稚園

区分	男	女	合計	
2年課程	4才児	19	20	39
	5才児	19	20	39
合計	38	40	78	

附属中学校

区分	男	女	合計
1学年	69	70	139
2学年	68	68	136
3学年	69	70	139
特別支援学級	1学年		
	2学年	1	1
	3学年		1
合計	207	209	416

附属小学校

区分	男	女	合計
1学年	30	30	60
2学年	36	30	66
3学年	31	29	60
4学年	37	45	82
5学年	40	37	77
6学年	31	42	73
特別支援学級	5年	1	1
	6年	1	1
合計	207	213	420

入試実施状況(2010年度入学)

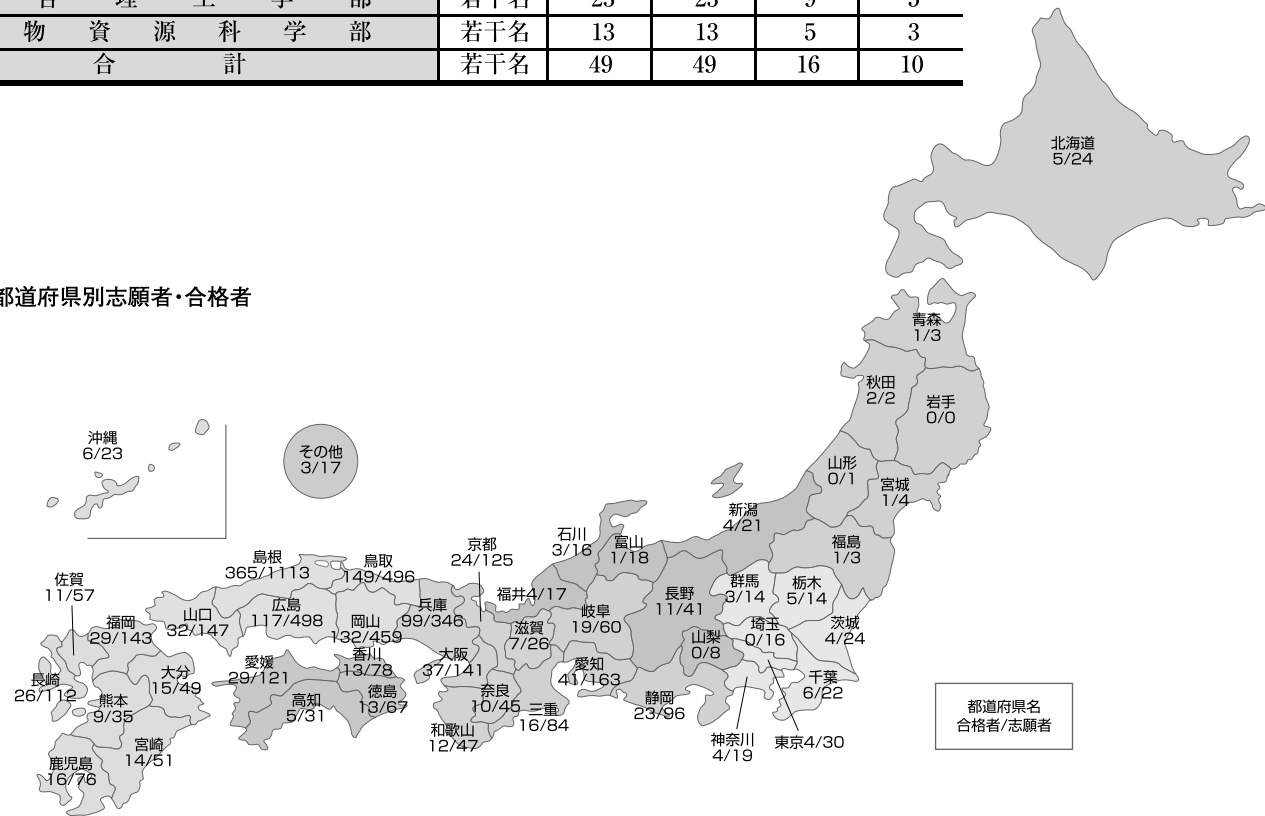
学部

学部・学科・課程	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	入学者出身別 (%)		
						県内	県外	
法文学部	法経学科	90	430	304	112	98	31.5	68.5
	社会文化学科	70	343	252	92	78		
	言語文化学科	65	316	220	83	65		
	計	225	1089	776	287	241		
教育学部	学校教育課程Ⅰ類	170	471	321	139	135	52.3	47.7
	学校教育課程Ⅱ類 健康・スポーツ教育専攻		96	76	16	16		
	学校教育課程Ⅱ類 音楽教育専攻		34	34	17	17		
	学校教育課程Ⅱ類 美術教育専攻		14	14	8	8		
	計		170	615	445	180		
医学部	医学科	100	413	362	101	100	36.3	63.7
	看護学科	60	286	190	67	60		
	計	160	699	552	168	160		
総合理工学部	物質科学科	130	448	306	156	133	19.6	80.4
	地球資源環境学科	50	442	312	52	50		
	数理・情報システム学科	100	608	391	113	100		
	電子制御システム工学科	80	189	148	89	85		
	材料プロセス工学科	40	160	152	51	40		
計	400	1847	1309	461	408			
生物資源科学部	生物科学科	30	76	75	34	27	13.3	86.7
	生態環境科学科	45	158	110	52	50		
	生命工学科	40	169	155	50	43		
	農業生産学科	30	114	111	33	28		
	地域開発科学科	55	236	205	66	62		
計	200	753	656	235	210			
合計	1155	5003	3738	1331	1195	27.9	72.1	

私費外国人留学生入試

学部	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
法文学部	若干名	13	13	2	2
総合理工学部	若干名	23	23	9	5
生物資源科学部	若干名	13	13	5	3
合計	若干名	49	49	16	10

都道府県別志願者・合格者



内訳

(1) 一般入試

学部・学科・課程	試験日程	募集人員	志願者	受験者	合格者	追加合格者	入学者
法文学部	法経学科	45	169	159	52		86
	社会文化学科	43	124	116	50		71
	言語文化学科	65	316	220	83		58
前期							
計	225	1089	776	287	1	215	
教育学部	学校教育課程Ⅰ類	70	153	141	83		96
	学校教育課程Ⅱ類 健康・スポーツ教育専攻	8	37	37	8		12
	学校教育課程Ⅱ類 音楽教育専攻	10	17	17	11		11
	学校教育課程Ⅱ類 美術教育専攻	4	7	7	4		4
前期							
計	170	615	445	180	0	123	
医学部	医学科	60	337	287	60	1	60
	看護学科	10	124	49	13	1	41
計	160	699	552	168	2	101	
総合理工学部	物質科学科	80	223	206	96		107
	地球資源環境学科	28	253	233	29	1	39
	数理・情報システム学科	100	608	391	113		65
	電子制御システム工学科	80	189	148	89		52
前期							
材料プロセス工学科	40	160	152	51		25	
							前期
計	400	1847	1309	461	2	288	
生物資源科学部	生物科学科	30	76	75	34	2	19
	生態環境科学科	45	158	110	52		36
	生命工学科	40	169	155	50		36
	農業生産学科	30	114	111	33	1	19
	地域開発科学科	55	236	205	66		41
計	200	753	656	235	3	151	
合計	1155	5003	3738	1331	8	878	

(2) 専門高校・総合学科卒業生入試

学部・学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
医学部 看護学科	3以内	6	6	3	3
合計	3以内	6	6	3	3

(3) 推薦入試Ⅰ

学部・学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	
法文学部	法経学科	10	33	33	11	11
	社会文化学科	7	37	37	7	7
	言語文化学科	7	19	19	7	7
計	24	89	89	25	25	
教育学部	学校教育課程Ⅰ類	12	38	38	13	13
	学校教育課程Ⅱ類 健康・スポーツ教育専攻	4	13	13	4	4
	学校教育課程Ⅱ類 音楽教育専攻	6	17	17	6	6
	学校教育課程Ⅱ類 美術教育専攻	4	7	7	4	4
	計	26	75	75	27	27
総合理工学部	物質科学科	10	20	20	10	10
	地球資源環境学科	7	13	13	7	7
	数理・情報システム学科	24	46	46	25	25
	電子制御システム工学科	15	41	40	18	18
	材料プロセス工学科	12	24	24	15	15
計	68	144	143	75	75	
生物資源科学部	生物科学科	8	24	24	9	8
	生態環境科学科	10	33	32	14	14
	生命工学科	6	15	15	7	7
	農業生産学科	8	26	26	9	9
	地域開発科学科	20	39	39	22	21
計	52	137	136	61	59	
合計	170	445	443	188	186	

(4) 推薦入試Ⅱ

学部・学科		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
医学部	医学科	25	45	44	25	25
	看護学科	15	47	47	16	16
	計	40	92	91	41	41
総合工学部	物質科学科	15	27	27	16	16
	数理・情報システム学科	10	38	38	10	10
	電子制御システム工学科	15	29	29	15	15
	計	40	94	94	41	41
合計		80	186	185	82	82

(5) 地域枠推薦入試

学部・学科		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
医学部	医学科	10	20	20	10	10
合計		10	20	20	10	10

(6) 緊急医師確保対策枠推薦入試

学部・学科		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
医学部	医学科	5	11	11	5	5
合計		5	11	11	5	5

(7) AO入試

学部・学科		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
教育学部	学校教育課程Ⅰ類	32	113	91	26	26
総合工学部	地球資源環境学科	5	10	10	4	4
合計		37	123	101	30	30

(8) 社会人入試

学部・学科		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
法文学部	法経学科	若干名	1	1	1	1
	社会文化学科	若干名	0	-	-	-
	言語文化学科	若干名	0	-	-	-
合計		若干名	1	1	1	1

(9) 帰国子女入試

学部		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
法文学部		若干名	3	3	1	0
合計		若干名	3	3	1	0

第3年次編入学

学部・学科		区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
法文学部	法経学科	一般	10	15	15	3	3
		一般		10	10	3	2
		一般		23	23	7	7
	計	10	48	48	13	12	
医学部	医学科	学士入学	10	238	206	12	10
		一般	10	28	27	14	9
	看護学科	一般	20	266	233	26	19
総合工学部	物質科学科	推薦	20	0	-	-	-
		一般		2	1	1	1
	地球資源環境学科	一般		0	-	-	-
		推薦		2	2	0	-
	数理・情報システム学科	一般		6	5	4	1
		推薦		3	3	2	2
	電子制御システム工学科	一般		14	13	8	4
		推薦		3	3	3	3
材料プロセス工学科	一般	10	10	5	4		
	推薦	20	40	37	23	15	
生物資源科学部	生物科学科	推薦	20	0	-	-	-
		一般		3	3	1	1
	生態環境科学科	推薦		3	3	2	2
		一般		7	7	5	3
	生命工学科	推薦		2	2	2	2
		一般		2	2	2	2
	農業生産学科	推薦		4	4	3	3
		一般		3	3	3	0
地域開発科学科	推薦	4	4	4	4		
	一般	2	2	2	1		
計		20	30	348	86	64	
合計			70	384	348	86	64

大学院

区分		入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
人文社会科学部 研究科	法経専攻	6	18	17	8	8
	言語・社会文化専攻	6	12	11	8	7
	計	12	30	28	16	15
教育学研究科	教育実践開発専攻	20	32	31	17	15
	教育内容開発専攻	20	28	27	26	24
	計	40	60	58	43	39
医学系研究科 (博士課程)	医科学専攻	30	36	36	36	36
	計	30	36	36	36	36
医学系研究科 (修士課程)	医科学専攻	15	20	20	20	15
	看護学専攻	12	13	12	12	12
計		27	33	32	32	27
総合工学部 研究科 (博士後期課程)	マテリアル創成工学専攻	6	4	4	4	4
	電子機能システム工学専攻	6	2	2	2	2
	計	12	6	6	6	6
総合工学部 研究科 (博士前期課程)	物質科学専攻	36	50	45	36	33
	地球資源環境学専攻	14	10	8	8	7
	数理・情報システム学専攻	28	40	39	31	28
	電子制御システム工学専攻	22	42	41	36	33
	材料プロセス工学専攻	12	15	12	10	8
計		112	157	145	121	109
生物資源科学 研究科	生物生命科学専攻	20	40	37	35	26
	農林生産科学専攻	22	14	13	13	11
	環境資源科学専攻	18	20	19	19	17
計		60	74	69	67	54
法務研究科	法曹養成専攻	20	19	16	12	11
合計		313	415	390	333	297

2011年度入試日程(予定)

区分	募集要項発表	願書受付期間	試験実施日	合格発表	
帰国子女(2010秋季入学)(生物資源科学部)	4月6日	6月14日～6月18日	7月10日	7月16日	
社会人入試(法文学部)	7月下旬	11月1日～11月5日	11月27日	12月2日	
推薦入試Ⅰ(法文学部,教育学部)			11月25日～11月26日		
推薦入試Ⅰ(総合理工学部,生物資源科学部)			12月4日	2月8日	
推薦入試Ⅱ(医学部)			1月20日～1月26日		2月4日
推薦入試Ⅱ(総合理工学部)			4月23日		11月1日～11月5日
地域枠推薦入試(医学部医学科) 緊急医師確保対策枠推薦入試(医学部医学科)	7月下旬	12月3日～12月9日	書類選考	1月19日	
私費外国人留学生 (法文学部,総合理工学部,生物資源科学部)			11月1日～11月5日	11月27日	12月2日
帰国子女(法文学部)			10月中旬	1月24日～2月2日	2月25日～2月26日
前期日程(全学部)	3月12日	3月22日			
後期日程(全学部)	2月25日～2月26日	3月7日	3月7日	3月7日	
専門高校・総合学科卒業生入試(医学部看護学科)			6月上旬	8月5日～8月12日	9月25日
AO入試(教育学部)	6月上旬	8月2日～8月6日	9月27日～9月28日	10月8日	
AO入試(総合理工学部 地球資源環境学科)					

卒業生数・修了者数

学部

2010.3.31現在

区 分		2009年度 卒業生	累 計
法 文 学 部	法 経 学 科	87	242
	社 会 文 化 学 科	83	210
	言 語 文 化 学 科	65	812
	法 学 科	7	3,985
	社 会 シ ス テ ム 学 科	2	762
	文 学 科		1,586
	計	244	7,597
教 育 学 部	学 校 教 育 課 程	168	507
	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	-	1,092
	生 涯 学 習 課 程	2	527
	生 活 環 境 福 祉 課 程	1	174
	小 学 校 教 員 養 成 課 程	-	4,790
	中 学 校 教 員 養 成 課 程	-	2,546
	養 護 学 校 教 員 養 成 課 程	-	570
	幼 稚 園 教 員 養 成 課 程	-	574
	特 別 教 科 (音 楽) 校 教 員 養 成 課 程	-	1,152
	特 別 教 科 (保 健 体 育) 校 教 員 養 成 課 程	-	856
	社 会 教 育 文 化 課 程	-	398
計	171	13,186	
医 学 部	医 学 科	86	2,778
	看 護 学 科	76	542
	計	162	3,320
総 合 理 工 学 部	物 質 科 学 科	105	1,253
	地 球 資 源 環 境 学 科	48	473
	数 理 ・ 情 報 シ ス テ ム 学 科	104	984
	電 子 制 御 シ ス テ ム 工 学 科	69	750
	材 料 プ ロ セ ス 工 学 科	41	463
計	367	3,923	
生 物 資 源 科 学 部	生 物 科 学 科	28	325
	生 態 環 境 科 学 科	49	553
	生 命 工 学 科	47	455
	農 業 生 産 学 科	31	361
	地 域 開 発 科 学 科	51	610
	計	206	2,304
文 理 学 部		-	3,950
理 学 部		-	3,510
農 学 部		-	5,141
合 計		1,150	42,931

専攻科他

区 分		2009年度 修了者	累 計
文 学 専 攻 科		-	18
理 学 専 攻 科		-	45
教 育 専 攻 科		-	232
農 学 専 攻 科		-	11
合 計		-	306
教 育 学 部 教 員 養 成 2年 課 程		-	1,106

大学院

2010.3.31現在

区 分		2009年度修了者 (単位取得退学を含む)	累 計
人 文 社 会 科 学 研 究 科	法 経 専 攻	3	23
	言 語 ・ 社 会 文 化 専 攻	1	29
	法 学 専 攻	-	56
	社 会 シ ス テ ム 専 攻	-	43
	言 語 文 化 専 攻	-	32
	計	4	183
教 育 学 研 究 科	教 育 実 践 開 発 専 攻	18	19
	教 育 内 容 開 発 専 攻	19	23
	学 校 教 育 専 攻	-	187
	教 科 教 育 専 攻	1	412
計	38	641	
医 学 系 研 究 科	形 態 系 専 攻	12	146
	機 能 系 専 攻	11	163
	生 態 系 専 攻	-	47
	計	23	356
	医 科 学 専 攻	9	32
	看 護 学 専 攻	10	52
計	19	84	
総 合 理 工 学 研 究 科	マ テ リ ア ル 創 生 工 学 専 攻	6	37
	電 子 機 能 シ ス テ ム 工 学 専 攻	1	20
	計	7	57
	物 質 科 学 専 攻	35	356
	地 球 資 源 環 境 学 専 攻	16	146
	数 理 ・ 情 報 シ ス テ ム 学 専 攻	23	202
	電 子 制 御 シ ス テ ム 工 学 専 攻	33	232
材 料 プ ロ セ ス 工 学 専 攻	12	104	
計	119	1,040	
生 物 資 源 科 学 研 究 科	生 物 生 命 科 学 専 攻	19	19
	農 林 生 産 科 学 専 攻	12	12
	環 境 資 源 科 学 専 攻	19	19
	生 物 科 学 専 攻	1	71
	生 態 環 境 科 学 専 攻	-	133
	生 命 工 学 専 攻	2	110
	農 業 生 産 学 専 攻	-	66
地 域 開 発 科 学 専 攻	3	68	
計	56	498	
法 務 研 究 科	法 曹 養 成 専 攻	15	77
計	15	77	
理 学 研 究 科		-	616
農 学 研 究 科		-	739
法 学 研 究 科		-	80
合 計		281	4,371

博士の学位授与者数

2010.3.31現在

区 分	課程博士		論文博士	
	2009年度	累 計	2009年度	累 計
医 学 系 研 究 科	28	337	6	279
総 合 理 工 学 研 究 科	6	53	1	5

卒業・修了後の状況

学部

2010.5.1現在

区分	法文学部	教育学部	医学部	総合理工学部	生物資源科学部	計
卒業進学者	244	171	162	367	206	1,150
産別						
農業, 林業				2	7	9
漁業					1	1
鉱業, 採石業, 砂利採取業						
建設業	4	1		7	3	15
製造業	12	3		44	20	79
電気・ガス・熱供給・水道業	3	1				4
情報通信業	13	3		33	3	52
運輸業, 郵便業	6	2		6		14
卸売・小売業	21	8		12	18	59
金融・保険業	23	2		7	5	37
不動産業, 物品賃貸業	2			3		5
学術研究, 専門・技術サービス業	3	1		11	4	19
宿泊業, 飲食サービス業	5			3	4	12
生活関連サービス業, 娯楽業	5	2		4	1	12
教育(学校教育)	9	81	3	25	8	126
学習支援	3	4		1	2	10
医療・福祉業	10		65	2		77
複合サービス業	6	4		4	6	20
その他のサービス業	2			7	6	15
公務(国家)	13	1		5	2	21
公務(地方)	35	6		18	12	71
その他						
就職者	175	119	68	194	102	658
臨床研修医			80			80
無業者等	47	34	7	42	18	148

※「無業者等」は、「専修学校・外国の学校等の入学者」、「一時的な仕事に就いた者」、「未決定者」である

大学院

2010.5.1現在

区分	人文社会科学部	教育学部	医学系研究科		総合理工学系研究科		生物資源科学部	法務研究科	計
			修士	博士一貫	博士前期	博士後期			
修了進学者	4	38	19	23	119	10	56	15	284
産別									
農業, 林業									
漁業									
鉱業, 採石業, 砂利採取業									
建設業					8		1		9
製造業	1	1			48		21		71
電気・ガス・熱供給・水道業					3				3
情報通信業		1			11				12
運輸業, 郵便業									
卸売・小売業			1		1		2		4
金融・保険業									
不動産業, 物品賃貸業					1				1
学術研究, 専門・技術サービス業		1			9	2	6		18
宿泊業, 飲食サービス業							1		1
生活関連サービス業, 娯楽業		1							1
教育(学校教育)		23	3	6	9	6	4		51
学習支援		1					2		3
医療・福祉業		1	9	10	2				22
複合サービス業									
その他のサービス業	1	1			5		2		9
公務(国家)	1								1
公務(地方)		5	2			2	6		15
その他									
就職者	3	35	15	16	97	10	45		221
無業者等	1	3	2	7	9		6	15	43

※「無業者等」は、「専修学校・外国の学校等の入学者」、「一時的な仕事に就いた者」、「未決定者」である

卒業後の主な就職先・進学先

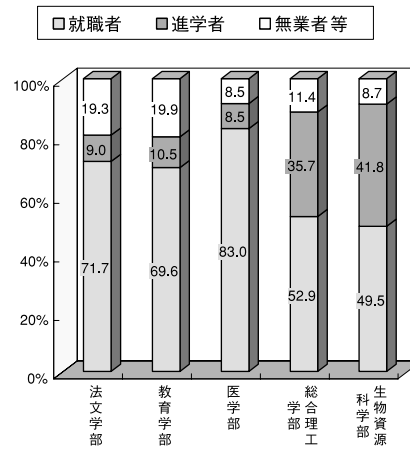
2010.5.1現在

区分	就職先
法文学部	<p>【就職先】豊田合成、タカラスタンダード、損害保険ジャパン、百五銀行、みずほ証券、ジェイコム、兼松エレクトロニクス、西日本旅客鉄道、大和ハウス工業、島根県庁、鳥取県庁、岡山県庁、京都府庁、中国財務局、中国経済産業局、国税専門官、労働基準監督官、北九州市役所、奈良県立橿原考古学研究所</p> <p>《地元企業》山陰中央テレビジョン放送、山陰合同銀行、鳥取銀行、島根銀行、島根富士通、ミック、プロビズモ、島根CSK、フジキコーポレーション、ウエルネス湖北、マリエヤしろ、JAいずも、JAくにびき</p> <p>【進学先】島根大学大学院、鳥取大学大学院、大阪市立大学大学院、信州大学法科大学院、南山大学法科大学院、北海道大学大学院、名古屋大学大学院、立命館大学大学院、一橋大学大学院、広島大学法科大学院、岡山大学大学院、香川大学法務研究科、関西学院大学法科大学院</p>
教育学部	<p>【就職先】小学校教員、中学校教員、高等学校教員、幼稚園教員、特別支援学校教員、中国電力、西日本旅客鉄道、日新、河合楽器製作所、小西医療器、郵便事業、独立行政法人産業技術総合研究所、松江中央児童相談所、益田市役所、島根県警、佐賀県警、島根県立大学</p> <p>《地元企業》鳥取銀行、今井書店、ウエルネス湖北、JAくにびき、JA雲南、JA斐川、さんれいフーズ、鳥取県中部農業共済組合、鳥取三菱自動車販売、三菱山陰自動車販売</p> <p>【進学先】島根大学大学院、広島大学大学院、愛媛大学大学院、岡山大学大学院、大阪教育大学大学院</p>
医学部	<p>【臨床研修先・就職先】島根大学医学部附属病院、島根県立中央病院、出雲市民病院、浜田医療センター、東京大学医学部附属病院、京都大学医学部附属病院、九州大学病院、広島大学病院、神戸大学医学部附属病院、島根県職員、松江生協病院、松江市立病院、松江赤十字病院、岡山大学病院、大阪市立大学医学部附属病院、神戸赤十字病院、京都第一赤十字病院、広島県立病院</p>
総合理工学部	<p>【就職先】中国電力、きんでん、大和ハウス工業、鉄建建設、近畿日本鉄道、西日本旅客鉄道、九州旅客鉄道、西日本高速道路、三菱重工業、本田技研工業、マツダ、スズキ、ヤマザキマザック、日立建機、塩野義製薬、豊田合成、日本化薬、中国塗料、新日鉄化学、シャープ、セイコーエプソン、京セラ、ローム、西日本電信電話、王子製紙、ユニ・チャーム、トクヤマ、リンナイ、非破壊検査、川崎地質、日本地研、数研出版</p> <p>《地元企業》出雲村田製作所、ホシザキ中国、田部、三菱農機、島根島津、島根富士通、ワールド測量設計、サンテクノス、プロビズモ、日本コルマー</p> <p>【進学先】島根大学大学院、九州大学大学院、広島大学大学院、北陸先端科学技術大学院大学、大阪大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、神戸大学大学院、大阪府立大学大学院、静岡大学大学院、山口大学大学院、筑波大学大学院、九州工業大学大学院</p>
生物資源科学部	<p>【就職先】三共製薬、日本農業、大塚製薬、千寿製薬、シンジェンタ・ジャパン、アース環境サービス、池田精化工業、王子コーンスターチ、豊田合成、明治製菓、日本アクセス、山崎製パン、フジパン、日清医療食品、パナソニック電工、島津メディカルシステムズ、前田道路、アマタ、JA高知はた、JA静岡、JA全農長野、日本放送協会、大分銀行、農林水産省、島根県庁、島根県中山間地域研究センター、島根県産業技術センター、島根県立宍道湖自然館コビウス、福岡県庁、京都市役所、広島県立総合技術研究所畜産技術センター</p> <p>《地元企業》やつか、井ゲタ竹内、田中種苗、JA雲南、大畑建設、テクノプロジェクト</p> <p>【進学先】島根大学大学院、岡山大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、神戸大学大学院、名古屋大学大学院、京都大学大学院、大阪大学大学院、広島大学大学院、鳥取大学大学院、九州大学大学院、北海道大学大学院、横浜市立大学大学院、東京大学大学院、新潟大学大学院、三重大学大学院</p>

*順不同。大学院修了者の就職先含む

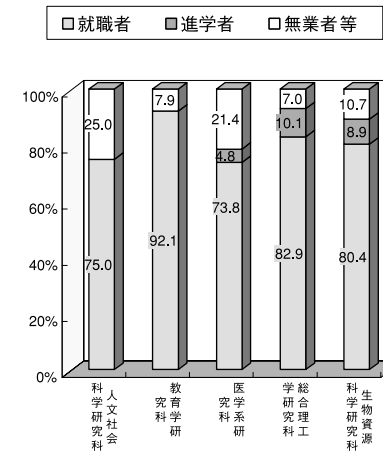
卒業・修了後の状況 (2010.5.1)

◆学部



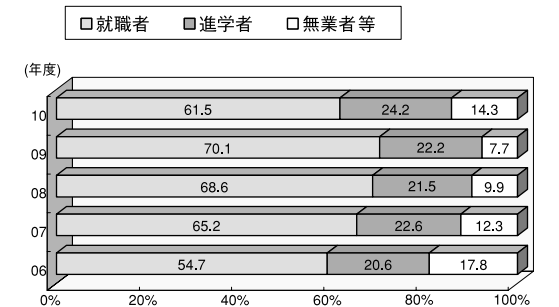
(注) 医学部は、臨床研修医を含まない。

◆大学院



(注) 法務研究科は含まない(修了者が少ないため)。

卒業後の状況の推移 (学部)



(注) 各年度の5月1日現在のデータである。

公開講座・公開授業

公開講座(2009年度)

有料 無料

講座名	時間数	募集人員	受講者数	開設場所	実施部局
さあ、ドイツ語をはじめよう	10	10	7	松江キャンパス	外国語教育センター
もっともっとドイツ語を!	10	10	12	松江キャンパス	外国語教育センター
ボタンの観賞と増殖	3	15	14	本庄総合農場	生物資源科学部
こども硬式テニス教室1A	12	30	16	学内テニスコート	教育学部
こども硬式テニス教室1B	12	30	33	学内テニスコート	教育学部
硬式テニス教室1	20	30	41	学内テニスコート	教育学部
楽しいサツマイモ栽培	12	30	6	本庄総合農場・神西砂丘農場	生物資源科学部
育てて食べよう黒タイズ	8	20	23	本庄総合農場	生物資源科学部
泳げない子の水泳教室	15	20	33	学内プール	教育学部
少しだけ泳げようの子の水泳教室	15	20	18	学内プール	教育学部
津田カブの栽培と加工	6	15	9	本庄総合農場	生物資源科学部
第4回・島根まるごとミュージアム体験ツアー	4	20	30	松江市内	ミュージアム
松江の名産西条柿に親しもう	6	30組	92	本庄総合農場	生物資源科学部
大規模災害における新たな環境整備構築に向けて	2	50	32	スティックビル	医学部
感染症入門講座(1)	7.5	50	42	出雲キャンパス	医学部
理科実験講座1 自然の中の放射線	3	15	7	出雲科学館	総合科学研究支援センター
理科実験講座2 実験動物学初歩	2.5	15	14	出雲科学館	総合科学研究支援センター
理科実験講座3 台所は実験室	3	15	20	出雲科学館	総合科学研究支援センター
理科実験講座4 顕微鏡の世界	3	15	24	出雲キャンパス	総合科学研究支援センター
夏休み子供科学教室「体の仕組みと健康について勉強しよう」	4	20	31	出雲キャンパス	医学部
地域再生システム特論	45	50	12	松江キャンパス	生物資源科学部
硬式テニス教室 II	20	30	41	学内テニスコート	教育学部
こども硬式テニス教室2A	8	30	21	学内テニスコート	教育学部
こども硬式テニス教室2B	12	30	27	学内テニスコート	教育学部
油彩画実技講座	18	10	9	松江キャンパス	教育学部
もっとドイツ語を!	10	10	4	松江キャンパス	外国語教育センター
いつまでもドイツ語を!	10	10	8	松江キャンパス	外国語教育センター
使ってみよう!ワープロソフト・ワード	8	15	13	松江キャンパス	生物資源科学部
上級者へステップアップ!ワープロソフト・ワード	8	15	13	松江キャンパス	生物資源科学部
「国語」の最前線	9	30	24	松江キャンパス	教育学部
音楽に親しもう!			22	島根県民会館他	教育学部
金属素材による工芸品制作体験	7	10	7	松江キャンパス	教育学部
松江地域文化を語る	6	30	46	松江キャンパス	生物資源科学部
島根の科学-おもしろい科学のはなし6-	3	100	25	松江キャンパス	総合科学研究支援センター
犯罪撲滅のために-規範と環境	2.5	80	51	スティックビル	医学部
第5回・島根まるごとミュージアム体験ツアー	4	20	27	島根大学旧奥谷宿舎他	ミュージアム
現代子育て親育ち事情	6	30	20	松江キャンパス	生涯学習教育研究センター

公開授業(2009年度)

講座名	回数	募集人員	受講者数	開設場所	実施部局
(前期)					
東アジアのこぼれと文学	13	10	0	学内	法文学部
歴史学概論	13	10	4	学内	法文学部
日本人の宗教と死生観	13	10	12	学内	法文学部
情報化社会と経済	13	5	0	学内	法文学部
汽水域の科学	13	無制限	0	学内	汽水域研究センター
細胞学	13	5	2	学内	生物資源科学部
古代中世の山陰	13	無制限	6	学内	法文学部
心の世界	13	無制限	4	学内	法文学部
日本の自然災害	13	5	2	学内	法文学部
古代出雲の考古学	13	無制限	7	学内	法文学部
人類史と考古学	13	10	3	学内	法文学部
遺伝学	13	3	1	学内	生物資源科学部
心の形成	13	10	6	学内	法文学部
異文化との出会い	13	10	4	学内	法文学部
医療人類学	13	5	0	学内	医学部
英米文学入門	13	5	2	学内	法文学部
島根学~島根の医学・医療と文化の歩み~	13	20	1	学内	医学部
環境の化学	13	10	0	学内	総合理工学部
エレクトロニクスのはなし	13	5	3	学内	総合理工学部
基礎社会学 I	13	5	1	学内	法文学部
世界の文学1~アフリカ文学と人種、ジェンダー、階級~	13	3	2	学内	法文学部
電気と磁気の物理学	13	5	0	学内	総合理工学部
歴史のなかの宗教 I	13	5	10	学内	法文学部
情報と地域~オープンソースと地域振興~	13	無制限	0	学内	総合情報処理センター
数の世界	13	10	3	学内	総合理工学部
環境問題通論A~21世紀に生きるための基礎知識~	13	10	0	学内	生物資源科学部
森林から耕地、海へ	13	若干名	2	学内	生物資源科学部
地域産業特論	13	5	0	学内	法文学部
考古学概論 I	13	10	1	学内	法文学部
東洋史概論A	13	3	2	学内	法文学部
地域産業論 I	13	5	1	学内	法文学部
考古学特論A	13	5	1	学内	法文学部
生産技術基礎実習 I	13	5	0	学内	生物資源科学部
木によるものづくり実習 III	13	5	6	学内	教育学部
日本史概論A	13	無制限	3	学内	法文学部
代数学入門 I	13	5	1	学内	総合理工学部
地誌学概論	13	無制限	0	学内	教育学部
共生社会演習(人文地理学)	13	無制限	1	学内	教育学部
財政学 I	13	無制限	5	学内	法文学部
フランス文化入門	13	10	1	学内	法文学部
生産技術基礎実習 III	13	5	0	学内	生物資源科学部
電気電子工学概論	13	5	0	学内	総合理工学部
耕地生産技術管理論	13	5	0	学内	生物資源科学部
西洋史概論A	13	10	2	学内	法文学部
植物細胞工学	13	5	0	学内	総合科学研究支援センター
自然地理学 I	13	5	0	学内	法文学部
農作業管理論	13	5	1	学内	生物資源科学部
果実発育生理学	13	3	2	学内	生物資源科学部
(後期)					
自然地理学概説 I	13	10	1	学内	教育学部
生産技術基礎実習 III	13	5	0	学内	生物資源科学部
人文地理学概説 I	13	無制限	0	学内	教育学部
情報産業論	13	5	0	学内	法文学部
高分子科学	13	5	0	学内	総合理工学部
日本古典文学特殊講義	13	無制限	15	学内	教育学部
歴史学史料演習G	13	3	0	学内	法文学部
木によるものづくり実習 I	13	5	1	学内	教育学部
西洋史概説B	13	10	3	学内	法文学部
中国文学における風土と人間	13	10	2	学内	法文学部
現代経済へのアプローチ	13	5	3	学内	法文学部
遺伝子を考える	13	5	0	学内	生物資源科学部
考古学からみた古代山陰の世界	13	10	11	学内	法文学部
地球:現在・過去・未来	13	10	7	学内	総合理工学部
生命科学の歴史と倫理	13	10	0	学内	医学部
汽水域の科学(応用編)	13	無制限	0	学内	汽水域研究センター
環境問題通論B	13	10	0	学内	生物資源科学部
王朝の物語	13	15	13	学内	法文学部
動物の物語	13	若干名	1	学内	生物資源科学部
プレートテクトニクス	13	10	4	学内	総合理工学部
遺伝と生物学	13	15	1	学内	生物資源科学部
島大ミュージアム学	13	無制限	1	学内	ミュージアム
技術と社会	13	50	1	学内	総合理工学部
特別講義(Rubyプログラミング)	13	5	0	学内	情報処理センター
森林の生態と環境保全	13	若干名	1	学内	生物資源科学部
情報科学演習B6	13	5	1	学内	教育学部
労働法 I	13	無制限	2	学内	法文学部
考古学概説 II	13	10	1	学内	法文学部
考古学特論C	13	10	3	学内	法文学部
情報経済論	13	5	0	学内	法文学部
地域産業論 II	13	5	2	学内	法文学部
生産技術基礎実習 II	13	5	0	学内	生物資源科学部
木によるものづくり実習 II	13	5	1	学内	教育学部
代数学入門 II	13	5	1	学内	総合理工学部
地方財政論	13	無制限	2	学内	法文学部
財政学 II	13	無制限	4	学内	法文学部
生産技術基礎実習 IV	13	5	1	学内	生物資源科学部
社会保障法 II	13	無制限	2	学内	法文学部
アメリカ文学応用演習 II	13	3	0	学内	法文学部
西洋史特論A	13	10	6	学内	法文学部
環境経済論 II	13	若干名	2	学内	法文学部
風土環境論	13	無制限	1	学内	教育学部
生産技術基礎実習 IV	13	5	1	学内	生物資源科学部
木と木工の知識	13	5	1	学内	教育学部
環境土壌学 II	13	若干名	0	学内	生物資源科学部
経済学概論	13	5	2	学内	法文学部
文化共生論	13	無制限	9	学内	教育学部

科学研究費補助金等の受入れ状況(2009年度)

科学研究費補助金

研究種目	件数	金額(千円)
特定領域研究	2	7,000
基盤研究(A)	3	19,264
基盤研究(B)	24	115,300
基盤研究(C)	93	95,931
挑戦的萌芽研究	11	12,400
若手研究(A)	1	1,600
若手研究(B)	49	50,078
若手研究(スタートアップ)	6	5,810
特別研究員奨励費	4	2,709
奨励研究	2	1,130
研究成果公開促進費	2	6,566
計	197	317,788

民間等との共同研究

件数	金額(千円)
73	62,511

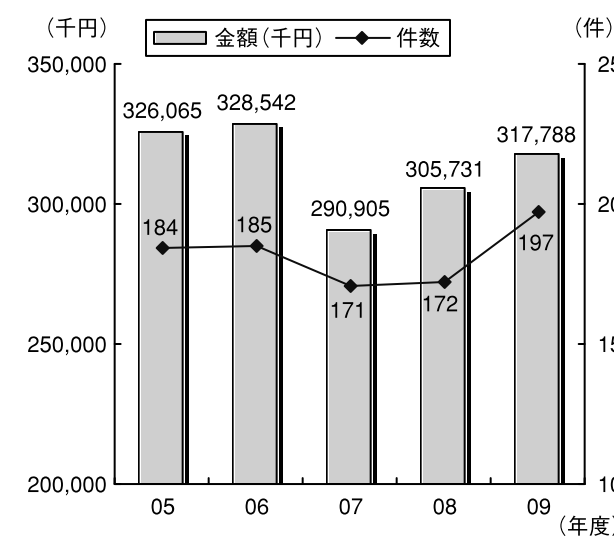
受託研究

件数	金額(千円)
61	308,897

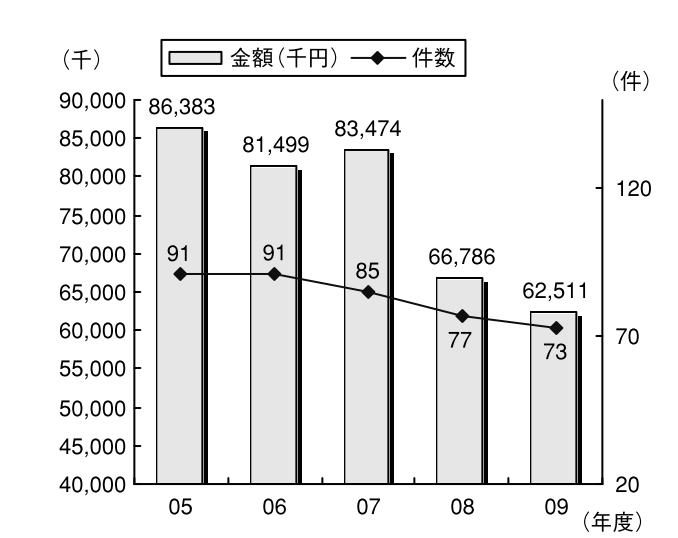
寄付金

件数	金額(千円)
541	567,890

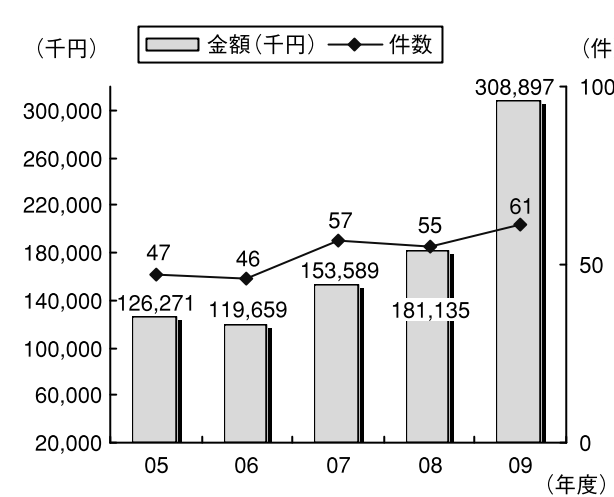
科学研究費補助金受入状況



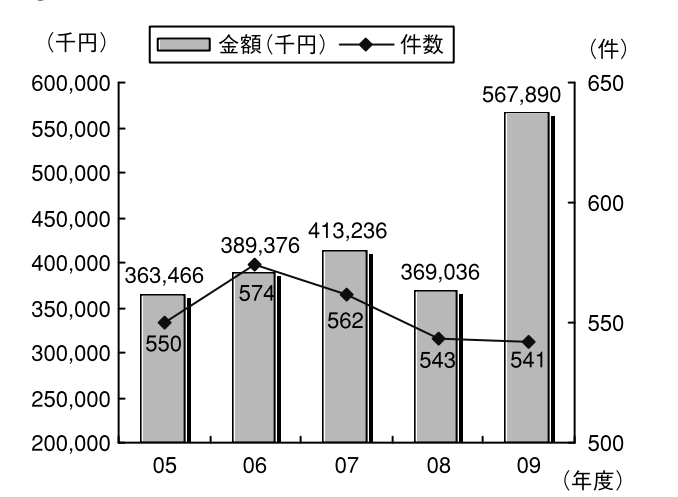
民間等との共同研究実施状況



受託研究受入状況



寄付金受入状況



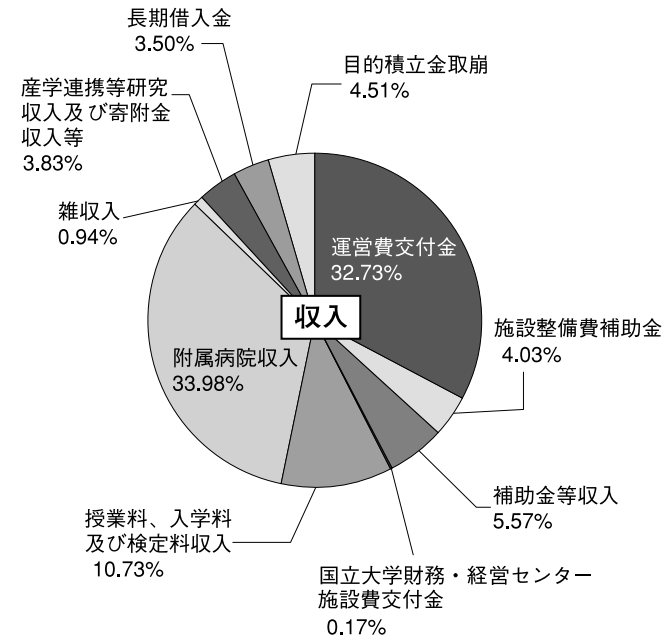
発明届出等状況(2009年度)

発明届件数	出願件数
26件	31件

収入・支出決算額(2009年度)

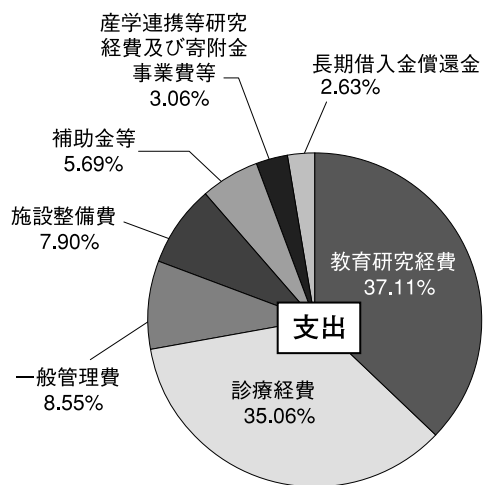
収入

区分	金額(百万円)
運営費交付金	10,918
施設整備費補助金	1,343
補助金等収入	1,859
国立大学財務・経営センター施設費交付金	56
授業料、入学科及び検定料収入	3,580
附属病院収入	11,335
雑収入	312
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,279
長期借入金	1,169
目的積立金取崩	1,503
合計	33,354

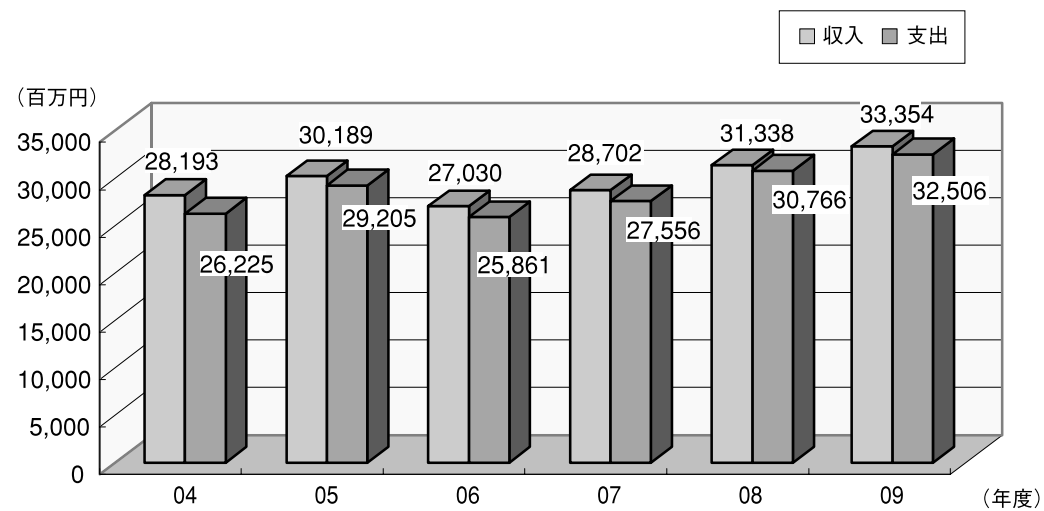


支出

区分	金額(百万円)
教育研究経費	12,062
診療経費	11,397
一般管理費	2,778
施設整備費	2,568
補助金等	1,849
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	996
長期借入金償還金	856
合計	32,506



収入・支出(歳入・歳出)の推移

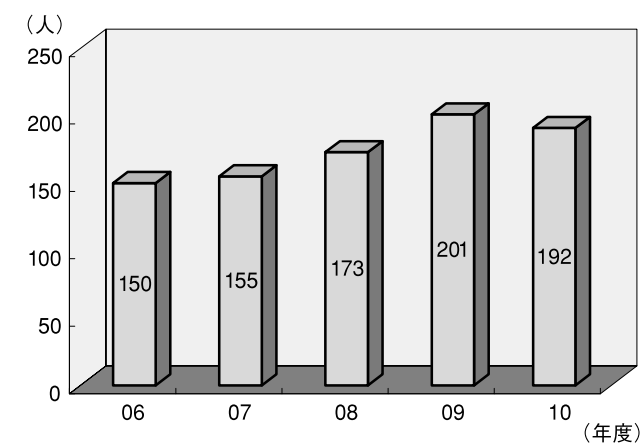


外国人留学生の受入状況

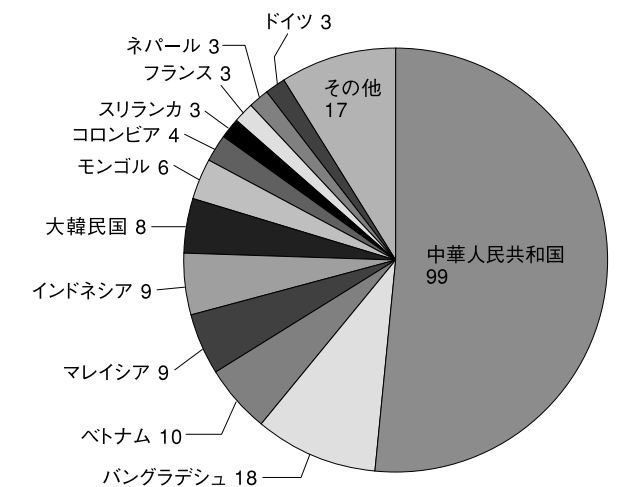
2010.5.1現在

国籍	法文学部・人文社会科学研究科			教育学部・教育学研究科			医学部・医学系研究科			総合理工学部・総合理工学研究科			生物資源科学部・生物資源科学研究科			鳥取大学大学院			計	総計	
	学部学生	大学院学生	研究生等	学部学生	大学院学生	研究生等	学部学生	大学院学生	研究生等	学部学生	大学院学生	研究生等	学部学生	大学院学生	研究生等	学部学生	大学院学生	研究生等			
中華人民共和国	7	11	3		8	1		13	1	10	10	5	7	11	1	11	24	64	11	99	
バングラデシュ								6			4			3		5		18		18	
ベトナム										5			5				10			10	
マレーシア	1									8							9			9	
インドネシア								2			4				2	1		7	2	9	
大韓民国	1		2		1	1									2	1	1	2	5	8	
モンゴル								3			3							6		6	
コロンビア											2			1		1		4		4	
スリランカ											3							3		3	
フランス			3																3	3	
ネパール											1			2				3		3	
ドイツ						3													3	3	
エジプト											1			1				1	1	2	
ケニア																2		2		2	
キルギス											2							2		2	
ミャンマー						1		1										1	1	2	
タイ						1										1		1	1	2	
イギリス								1										1		1	
インド											1							1		1	
カザフスタン	1																1			1	
コンゴ民主共和国								1										1		1	
ニカラグア											1							1		1	
ポーランド			1																1	1	
台湾	1																	1		1	
小計	11	11	9		9	7		27	1	23	32	5	12	17	6	22	46	118	28	192	
総計	31			16			28			60			35			22			192		

留学生数の推移



留学生の国籍内訳

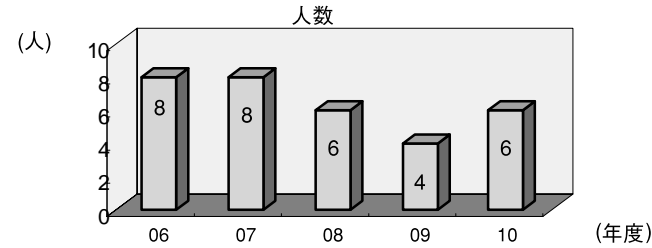


外国への留学状況

2010.5.1現在

国名	法文学部	教育学部	医学部	総合理工学部	生物資源科学部	計
韓国	1	0	0	0	0	1
フランス	2	0	0	0	0	2
中華人民共和国	0	0	0	0	0	0
ドイツ	2	0	0	1	0	3
アメリカ合衆国	0	0	0	0	0	0
計	5	0	0	1	0	6

●留学状況



外国人研究者の受入状況

2009年度

国籍	法文学部	教育学部	医学部	総合理工学部	生物資源科学部	合計
アメリカ合衆国		1	2	1	1	5
インドネシア			3		2	5
スウェーデン			1	2		3
スペイン				1		1
ドイツ				1		1
ナイジェリア					1	1
バングラデシュ			5		1	6
モンゴル			2			2
合計	0	1	13	5	5	24

奨学生数

2010.3.1現在

区分	学生数	日本学生支援機構			比率
		第一種	第二種	計	
法文学部	1,005	200	311	511	50.8
教育学部	710	143	214	357	50.3
医学部	848	126	248	374	44.1
総合理工学部	1,817	304	614	918	50.5
生物資源科学部	900	160	295	455	50.6
計	5,280	933	1,682	2,615	49.5
人文社会科学研究科	10	5	2	7	70.0
教育学部研究科	博士課程	110	2	2	1.8
	修士課程	57	4	5	8.8
総合理工学研究科	博士前期課程	233	104	131	56.2
	博士後期課程	18	6	6	33.3
生物資源科学研究科	112	51	18	69	61.6
法務研究科	74	20	16	36	48.6
計	683	206	68	274	40.1
合計	5,963	1,139	1,750	2,889	48.4

定期刊行文献

●学術雑誌

発行部局等名	文献誌名	編集	発行回数(年)
法文学部	島根大学経済科学論集	法経学科・法務研究科	4
	社会文化論集	法経学科	1
	島根大学言語文化	社会文化学科	1
	山陰研究	言語文化学科	2
		山陰研究センター	1
教育学部	島根大学教育学部紀要(教育科学、人文・社会科学、自然科学)	教育学部	1
	島根大学教育臨床総合研究	教育学部附属教育支援センター	1
	島根大学教育学部心理臨床・教育相談室紀要	教育学部心理臨床・教育相談室	1
	附属小学校研究紀要	附属小学校	1
	附属中学校研究紀要	附属中学校	1
医学部	島根大学医学部紀要, Shimane Journal of Medical Science	医学部	1
総合理工学部	島根大学総合理工学部紀要	総合理工学部	1
	島根大学地球資源環境学研究所報告	総合理工学部地球資源環境学科	1
生物資源科学部	島根大学生物資源科学部研究報告	生物資源科学部	1
生涯学習研究センター	島根大学生涯学習研究センター研究紀要	生涯学習研究センター	1
総合科学研究支援センター	島根大学総合科学研究支援センター教育研究活動報告	総合科学研究支援センター	1
外国語教育センター	島根大学外国語教育センタージャーナル	外国語教育センター	1
島根大学・寧夏大学国際共同研究所	島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報	島根大学・寧夏大学国際共同研究所	1

●広報紙等

発行部局等名	広報紙名	編集	発行回数(年)
総務課	島根大学概要	広報・広聴委員会	1
	島根大学案内	広報・広聴委員会	1
	広報しまだい	広報・広聴委員会	2
	be	広報・広聴委員会	1
法文学部	島根大学法文学部(学部案内)	法文学部	1
	島根大学教育学部(学部案内)	教育学部	1
	1000時間体験学修	教育学部附属教育支援センター	1
	こころとそだちの相談室	教育学部心理・発達臨床相談室	1
	園要覧(附属幼稚園)	附属幼稚園	1
	おりづる	附属幼稚園	6
	学校要覧(附属小学校)	附属小学校	1
	附小だより	附属小学校	6
	ちどり	附属小学校	3
	学校要覧(附属中学校)	附属中学校	1
若樹	附属中学校	3	
医学部	島根大学医学部(学部案内)	医学部	1
医学部附属病院	病院ニュース しろうさぎ	附属病院	4
総合理工学部	島根大学総合理工学部(学部案内)	総合理工学部	1
総合理工学研究科	島根大学大学院総合理工学研究科(博士前期課程)(研究科案内)	総合理工学研究科	不定期
	島根大学大学院総合理工学研究科(博士後期課程)(研究科案内)	総合理工学研究科	不定期
生物資源科学部	島根大学生物資源科学部(学部案内)	生物資源科学部	1
	生物資源科学部だより	生物資源科学部	2
法務研究科	島根大学法科大学院(山陰法科大学院)パンフレット	法務研究科	不定期
	島根大学大学院法務研究科(山陰法科大学院)地域法律相談センター案内	法務研究科	不定期
	島根大学法文学部紀要法経学科・法務研究科篇[島根大学]	法文学部法経学科・法務研究科	4
附属図書館	島根大学附属図書館概要	図書館課	3年毎
	附属図書館報: 雲	図書館課	2
	本館ニュース「LiMe ライム」	図書館課	毎月
	医学図書館ニュース「インフォ・アクセス」	図書館課	毎月
保健管理センター	保健管理センターのしおり	保健管理センター	1
生涯学習教育研究センター	島根大学生涯学習教育研究センター研究紀要	生涯学習教育研究センター	1
	島根大学生涯学習教育研究センター年報	生涯学習教育研究センター	1
	島根大学生涯学習教育研究センターパンフレット	生涯学習教育研究センター	不定期
総合情報処理センター	島根大学総合情報処理センター(概要)	総合情報処理センター	不定期
	島根大学総合情報処理センター・News Letter	総合情報処理センター	1
産学連携センター	島根大学研究シーズ集	産学連携センター	不定期
	島根大学産学連携センター年報	産学連携センター	1
	島根大学産学連携センター・ニュースレター	産学連携センター	1
ミュージアム	島根大学ミュージアム・ニュースレター	ミュージアム	不定期
	島根大学ミュージアム年報	ミュージアム	1
教育開発センター	島根大学教育開発センター年報	教育開発センター	1
	島根大学教育開発センターパンフレット	教育開発センター	不定期
	島根大学優良教育実践表彰者の声	教育開発センター	1
	島根大学「学生による授業評価」速報	教育開発センター	2
	島根大学卒業生・修了生に対する教育成果の検証に関する調査報告書	教育開発センター	不定期
入試センター	高大接続研究	入試センター	1
男女共同参画推進室	島根大学男女共同参画推進室メールマガジン[さぼっと通信]	男女共同参画推進室	12
	島根大学男女共同参画推進室事業報告書	男女共同参画推進室	1
	島根大学男女共同参画推進室リーフレット	男女共同参画推進室	不定期
国際交流センター	SHIMANE UNIVERSITY PROSPECTUS	国際交流センター	1
	SHIMANE UNIVERSITY PROSPECTUS(大学院版)	国際交流センター	1
	島根大学リーフレット	国際交流センター	不定期

土地・建物

区分	土地	建物		備考
		延面積	面積	
松江キャンパス				
西川津地区	176,931	36,436	117,338	
本部管理棟		642	2,789	
法文学部		1,899	7,629	
教育学部		4,050	16,554	
総合理工学部		6,692	34,538	1、2、3号館
生物資源科学部		4,926	22,337	1、2、3号館
生物資源科学部附属施設		1,257	1,365	水利実験室、農業機械実験室、林産加工場、製材室
教養講義室		1,684	4,708	1、2号館
附属図書館		2,020	6,826	
遺伝子実験施設		515	1,513	
保健管理センター		256	474	
総合情報処理センター		356	682	
ミュージアム		153	153	
汽水域研究センター		249	760	
古代出雲研究施設		64	129	
光物性実験室		52	52	
動物飼育室		50	50	
体育施設		4,462	5,122	第一、第二体育館、トレーニングセンター、プール棟、武道場
学生センター		768	1,393	
学生支援センター		345	656	
学生会館松江		876	2,165	
学生食堂		1,202	1,635	学生食堂、第二学生食堂
課外活動施設		488	1,957	
環境安全施設		180	180	
有機廃液焼却施設		92	92	
中央監視室		69	69	
特高変電室棟		168	336	
その他		2,921	3,174	倉庫建及び雑屋建
深町地区(学寮)	23,711	2,128	4,481	
大輪地区	54,654	8,328	15,305	
教育学部附属幼稚園		732	896	園舎、物置器具置場、渡廊下
教育学部附属小学校		3,860	7,406	
教育学部附属中学校		3,736	7,003	
その他の地区				
汽水域研究センター中海分室	3,123	376	771	
国際交流会館松江	3,182	434	830	
生物資源科学部附属生物資源教育研究センター				
森林科学部門	5,800,355	464	686	三瓶演習林、匹見演習林、松江試験地
農業生産科学部門	180,712	5,196	6,025	本庄総合農場、神西砂丘農場、三瓶山麓農場
海洋生物科学部門	4,318	869	1,505	隠岐臨海実験所
第2運動場	4,864	75	75	
朝酌艇庫	1,315	302	369	
研究者交流会館	1,119	339	503	
産学連携センター(松江)	0	589	1,141	地域産業共同研究部門、知的財産創活部門、連携企画推進部門
その他	1,825			京田、曲り田
出雲キャンパス	220,198	31,531	102,966	
本部棟		696	3,206	
講義棟		648	1,930	
実習棟		1,179	4,524	
基礎研究棟		693	5,094	
臨床研究棟		916	4,647	
共同研究棟		598	2,398	
第二研究棟		560	3,714	
第二共同研究棟		290	1,149	
第三共同研究棟		216	420	
R I・動物実験施設		1,082	3,886	
附属図書館(医学図書館)		927	2,182	
附属病院棟		10,617	40,514	
R I・高エネルギー棟		1,043	1,158	
臨床講義棟		704	1,507	
学生会館出雲		665	1,946	
体育館		1,175	1,175	
武道館		432	432	武道場、弓道場
中央機械室		1,779	2,567	
医学部会館		373	586	
MR I - C T装置棟		468	531	
病歴室		150	466	
第三研究棟		395	1,346	
R I研究棟		192	428	
塵芥焼却炉室・発電機室		323	323	
国際交流会館出雲		435	906	
看護学科棟		1,345	6,823	
看護師宿舎		935	4,006	
中水処理機械室		336	336	
R I処理施設		216	259	
特高変電棟		195	390	
産学連携センター(出雲)		767	2,268	地域医学共同部門
その他		1,181	1,849	

連絡先一覧

大学ホームページ: <http://www.shimane-u.ac.jp>

E-mail: webinfo@jn.shimane-u.ac.jp

◆学部等

	電話/E-mail
法文学部	0852-32-6113 hor-soumu1@jn.shimane-u.ac.jp
教育学部	0852-32-6251 kyo-soumu@jn.shimane-u.ac.jp
附属教育支援センター	0852-32-9836 aces@edu.shimane-u.ac.jp
附属教師教育研究センター	0852-32-6495
附属FD戦略センター	0852-32-9850
附属幼稚園	0852-29-1120 sora@edu.shimane-u.ac.jp
附属小学校	0852-29-1200 yaegumo@edu.shimane-u.ac.jp
附属中学校	0852-29-1300 shimafu@edu.shimane-u.ac.jp
医学部	0853-20-2015 igak-sokac@jn.shimane-u.ac.jp
医学部附属病院	0853-20-2061 renkei@med.shimane-u.ac.jp
総合理工学部	0852-32-6095 hri-soumu2@jn.shimane-u.ac.jp
生物資源科学部	0852-32-6492 toiawase@life.shimane-u.ac.jp
附属生物資源教育研究センター	0852-34-0311 ercbr@life.shimane-u.ac.jp
法務研究科	0852-32-9835 houka-in@jn.shimane-u.ac.jp

◆学内共同教育研究施設等

	電話/E-mail
産学連携センター	
地域産業共同研究部門	0852-60-2290
知的財産創活部門	0852-60-2290
連携企画推進部門	0852-60-2290 (松江キャンパス) crcenter@ipc.shimane-u.ac.jp
地域医学共同研究部門	0853-20-2912 (出雲キャンパス) cmrc@med.shimane-u.ac.jp
総合科学研究支援センター	
・松江キャンパス	
遺伝子機能解析分野	0852-32-6109 idenshi@life.shimane-u.ac.jp
R I実験施設	0852-32-6109
物質機能分析分野	0852-32-6122 katsube@riko.shimane-u.ac.jp
・出雲キャンパス	
実験動物分野	0853-20-2363
生体情報・R I実験分野	crshp@med.shimane-u.ac.jp
保健管理センター	
・松江キャンパス	0852-32-6568
・出雲キャンパス	0853-20-2098 nohara@med.shimane-u.ac.jp
生涯学習教育研究センター	0852-32-6408 ercll@edu.shimane-u.ac.jp
国際交流センター	0852-32-9756 international@jn.shimane-u.ac.jp

男女共同参画推進室	0852-32-9766 kyodo-sankaku@edu.shimane-u.ac.jp
総合情報処理センター	0852-32-6091 center@ipc.shimane-u.ac.jp
汽水域研究センター	0852-32-6099 kisui@soc.shimane-u.ac.jp
外国語教育センター	0852-32-9837 ozono@soc.shimane-u.ac.jp
ミュージアム	0852-32-6496 museum@riko.shimane-u.ac.jp
評価室	0852-32-6605
総合企画室	0852-32-6605
教育開発センター	0852-32-6052
入試センター	0852-32-6073 nyu-nyushi@jn.shimane-u.ac.jp
キャリアセンター	0852-32-6061
プロジェクト研究推進機構	0852-32-6056 kenkyh04@jn.shimane-u.ac.jp
島根大学・寧夏大学国際共同研究所	0852-32-9735 kks-kouryu@jn.shimane-u.ac.jp

◆事務組織

	電話/E-mail
総務部	
総務課	0852-32-6014 jsy-bunsyo@jn.shimane-u.ac.jp
人事労務課	0852-32-6018 sji-syokuin@jn.shimane-u.ac.jp
財務部	
財務課	0852-32-6023
経理・調達課	0852-32-6028 zke-keiyaku1@jn.shimane-u.ac.jp
施設企画課	0852-32-6044
施設整備課	zki-soumu@jn.shimane-u.ac.jp
監査室	0852-32-6026 zza-kansa@jn.shimane-u.ac.jp
学術国際部	
研究協力課	0852-32-6056
国際交流課	0852-32-6106
情報企画課	0852-32-6248 jka-iyohou@jn.shimane-u.ac.jp
図書情報課	0852-32-6083 library@lib.shimane-u.ac.jp
教育・学生支援部	
教育・入試企画課	0852-32-6052 gak-kyoumu@jn.shimane-u.ac.jp
学務課	0852-32-7029
学生支援課	0852-32-6063 gga-shien@jn.shimane-u.ac.jp
附属図書館	
本館(松江キャンパス)	0852-32-6083 library@lib.shimane-u.ac.jp
医学図書館(出雲キャンパス)	0853-20-2092 m-kanri@lib.shimane-u.ac.jp

アクセス

(2010.5.20現在)

松江キャンパス

空路

東京(羽田)→出雲……………1時間20分
 福岡→出雲……………1時間15分
 大阪(伊丹)→出雲……………1時間
 札幌→出雲<季節運行>……………2時間
 ※出雲空港から空港連絡バス松江行(約30分)JR松江駅下車
 東京(羽田)→米子……………1時間15分
 名古屋→米子……………1時間05分
 ※米子空港から空港連絡バス松江行(約45分)JR松江駅下車

J R

東京→岡山→松江……………5時間40分
 福岡→岡山→松江……………4時間30分
 大阪→岡山→松江……………3時間10分

高速バス

東京(渋谷)→松江……………10時間35分
 大阪(梅田)→松江……………4時間40分
 岡山→松江……………3時間
 広島→松江……………3時間15分
 福岡→松江……………9時間

出雲キャンパス

空路

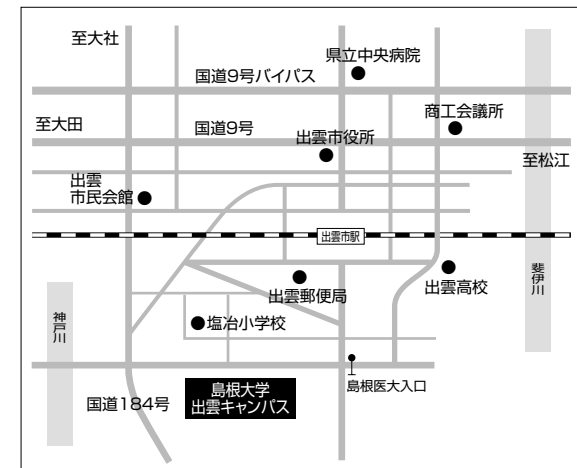
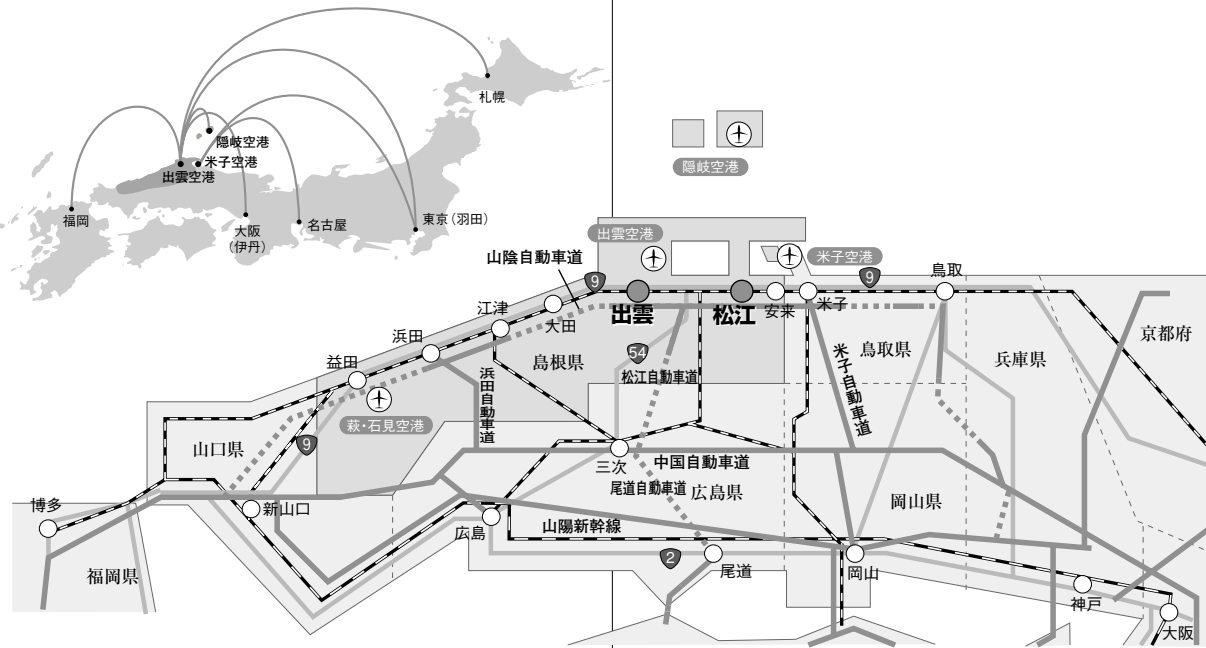
東京(羽田)→出雲……………1時間20分
 福岡→出雲……………1時間15分
 大阪(伊丹)→出雲……………1時間
 札幌→出雲<季節運行>……………2時間
 ※出雲空港から空港連絡バス出雲市駅行(約25分)JR出雲市駅下車

J R

東京→岡山→出雲市……………6時間15分
 福岡→岡山→出雲市……………4時間35分
 大阪→岡山→出雲市……………3時間45分

高速バス

東京(渋谷)→出雲……………12時間
 大阪(梅田)→出雲……………5時間30分
 岡山→出雲……………3時間40分
 広島→出雲……………3時間15分
 福岡→出雲……………8時間



鳥根大学周辺案内



松江城
山陰地方で唯一の現存する天守閣。天守からは松江市内を一望することができます。



堀川遊覧船
小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)がこよなく愛した水の都松江のまちを水際からめぐります。



鳥根県立古代出雲歴史博物館
荒神谷や加茂岩倉から出土した大量の青銅器、古代の出雲大社復元模型など古代出雲の謎に迫る展示が一堂に。



宍道湖
松江市の西にひろがる湖で、夕景の美しさが有名です。海水の少しまじった汽水湖で、ヤマトシジミの全国的な主産地でもあります。



出雲大社
伊勢神宮に並ぶ大社。大国主命を祀り縁結びの神としても有名です。本殿は国宝に指定されています。



日御碕
明治36年に建築された石積み灯台で、地上38.8m東洋一の高さを誇り、世界の灯台百選に選ばれています。



出雲ゆうプラザ
中四国で最大級の温泉・温水を活用した施設で、ウォータースライダー、渚プール、サウナなどが楽しめます。



県内その他のエリア



石見銀山
徳川幕府の財政を支えてきた銀山。横穴式坑道の「間歩」が一般公開されています。2007年、世界遺産に登録。



しまね海洋館アควアス
中四国地方最大規模を誇る水族館。シロイルカが人気で、約500種1万点もの海の生物が展示されています。



津和野
城下町として700年の歴史を持つ山陰の小京都。白壁を映す堀割に遊ぶ鯉、赤い鳥居の続く太鼓谷稲荷神社などが有名。



国賀海岸
本土から高速船で約1時間の隠岐の島。国賀海岸は隠岐を代表するダイナミックな景勝地です。